

<u>科目名</u>	<u>科目担当代表教員</u>	<u>ページ数</u>
こども発達支援総論	木谷 岐子	2
こども発達特論	美馬 正和	11
教育課程・方法特論	相馬 哲也	20
インクルーシブな教育・保育特論	木谷 岐子	29
教育内容・教材特論	佐々木 英明	38
教育方法実践特論	渡邊 堯宏	47
特別支援教育コーディネーター特論	村田 敏彰	56
保護者支援特論	植木 克美	65
こども発達支援・臨床相談特論	山本 愛子	74
特別支援教育方法特論	後藤 広太郎	83
こども発達特別演習	小林 美花	92
教育課程・方法特別演習	佐々木 英明	101
教育内容・教材特別演習	佐々木 英明	110
教育方法実践特別演習	渡邊 堯宏	119
発達障害実践特別演習	後藤 広太郎	128
こども発達支援・臨床相談特別演習	山本 愛子	137
気になる子どもの発達支援特別演習	木谷 岐子	146
発達支援分析評価法実践演習	山本 愛子	155
こども発達学実践演習Ⅰ	山本 愛子	164
こども発達学実践演習Ⅱ	渡邊 堯宏	173
こども発達学実践演習Ⅲ	佐々木 英明	182
こども発達学特別研究Ⅰ	宮崎 隆志	191

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 発達支援に関する総論					
科目名		こども発達支援総論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	木谷 岐子、白幡 知尋、山本 愛子、渡邊 堯宏、小林 美花						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「家庭や地域社会の変化に伴うこども発達の実態やニーズの多様化に対応して、適切な支援、指導、教育の実践を展開できる。(知識・技能)」、「教育、保育において、多様なニーズを有するこどものインクルーシブな教育・支援を展開できる。(知識・技能)」と関係する科目である。							

- ①幼児教育、学校教育、特別支援教育における子どもの発達を説明できるようになる。
- ②理論と実践の知見を活用するための対話・討論に積極的に参加できるようになる。
- ③幼児期と児童期の連続性、およびインクルージョンに関する知見を活用し、議論に参加できるようになる。

授業の方法

- ①パワーポイントや印刷配布物を用いて解説する。
- ②少人数のゼミ形式であり、対話・討論活動を軸にすすめる。
- ③自身の実践や経験をふまえた、課題を提示してもらい、対話・討議を取り入れながら授業をすすめる。

ICT活用

Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。各自の研究計画やレポートを院生間で共有し、発表や対話の資料を作成し、アクティブ・ラーニングをすすめる。

実務経験のある教員の教育内容

教員は、保育園、こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校、発達相談等での豊かな実務経験を持つ。その経験を活かし、院生が設定した研究テーマへの取り組みを支援する。

課題に対するフィードバックの方法

各自のレポートを参加者間で共有し、教員からのフィードバックを毎回行い、参加者同士の対話を軸に展開する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	保育における人的環境について先行研究から検討する。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第2回	保育の質の向上と働き方について先行研究より検討し考察する。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第3回	乳児保育における主体性について、子どもの権利条約を踏まえ、関わり方など具体的な内容について学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	渡邊 堯宏		

第4回	子どもの正常発達全般について学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第5回	子どもの運動発達について学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第6回	運動発達障害についての医学的基礎について学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		

第7回	発達支援における「援助者への援助」について学習する。ここでは、特に、対人援助の領域において援助者が被援助者から受ける影響に関して、ボランティア及び福祉専門職の事例を通して学び、援助者への援助のあり方について考察する。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	山本 愛子		
第8回	関係力育成プログラムに基づく子育て支援とその評価法について学習する。ここでは、子育て・発達支援の理論として用いられている関係力育成プログラムとその評価法について、映像資料及び文献講読を通して学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	山本 愛子		
第9回	発達支援の領域における母親支援としてのミュージックセラピーについて学習する。ここでは、子育て・発達支援の領域における母親への心理的支援のあり方に関して、音楽療法的視点から学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	山本 愛子		

第10回	発達障がいと共に生きる人の幼少期・思春期・青年期・成人期の姿を、ライフストーリー研究等を通して具体的に学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第11回	障がい受容について、当事者や保護者の心情を捉えた手記や研究成果を通して学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	障がいと共にある人への社会のサポートについて、乳幼児期から成人になるまでの支援を学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第13回	乳児保育における主体性について、子どもの権利条約を踏まえ、関わり方など具体的な内容について学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	小林 美花		
第14回	子どもにとっての最善の環境について、人、物、場所、空気、状況などあらゆる角度から考察し、集団生活の中で安心して生活することと、心身への影響について学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	小林 美花		
第15回	子ども理解、発達の理解、保育の方法、保護者支援など多角的な視点で保育者の役割を考え、対人援助職としての保育者の専門性について学ぶ。	授業で紹介された参考文献を探索し、読む。(90分)	各回に提示されるリアクションレポートを作成する。(90分)
担当教員	小林 美花		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業に関するリアクションレポートの内容(50%)、および授業での対話・討論への参加状況(50%)によって評価する。
その他	0	
教科書		
・各回、それぞれの担当者から提示される。		
参考文献		

・各回、それぞれの担当者から提示される。

履修条件・留意事項等

・各自の修士論文をよりよいものとするため、主体的な学びの場とすることが求められる。

備考欄

・2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「教育の基礎的理解に関する科目等」区分における選択必修科目である。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達学基礎科目					
科目名		こども発達特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	美馬 正和						
授業の位置づけ							
「こども発達特論」は、人間の発達の变化とその背景と問題との関連性についてプロセスを考究するための学問であり、こども発達学の基礎となる科目である。 また、「こども発達特別演習」の基盤となる科目であり、講義内容に関連性がある。							
授業の概要							
①乳児期から児童期の発達の变化に基づき、発達を可能にしている諸条件を探究する。 ②こどもの発達の特性を理解し、幼児教育や学校教育の現場が抱える諸問題を考究する。 ③こどもの発達と諸要因の関連を検討し、多角的に人間精神と子どもの発達を広い視点で考察する。							
到達目標							

- ①学生は保育、幼児教育、学校教育、特別支援教育の現場における実践とその課題を述べることができる
 ②学生は理論と実践の関連性について、学問的に理解を深めて活用し討議することができる
 ③学生はこどもの発達の特性の知識と知見を探究して、専門性のある対応方法を実施することができる

授業の方法

教科書、プリントを使用した講義形式ならびにディスカッション形式で行う。必要に応じてDVDなどの映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。授業内の小レポートで、学習内容の確認を行う。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

乳幼児健康診査で発達相談、国立大学の研究機関で発達障害、社会的養護の研究に従事、大学の教員などこども発達学に関する実践的経験を有する。以上の経験を活かし、学生が目指している発達支援や保育・教育について、そのニーズに基づく研究活動としての調査、論文作成のための専門性と知識の伝授および指導をする。

課題に対するフィードバックの方法

小レポート、リアクションペーパーに記入された受講生の意見を共有、フィードバックする時間を設ける。課題に対しては、コメントを返します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	発達の定義と発達の規定因・生涯発達の視点について学びと考察をする。	(準備学習) 事前に配布されたシラバスに目を通しておく。(90分)	(事後学習) 配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			
第2回	発達の理論①発達とは何か？脳の機能について仕組みを理解して知識を探究する。	(準備学習) シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習) 配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			
第3回	発達の理論②発達とは何か？環境と遺伝の相互作用について考究する	(準備学習) シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習) 配布資料の整理と文献や論文を参照する。(30分)
担当教員			

第4回	胎児期・新生児期の特徴と発達について専門用語と感覚器官と感覚機能の知識を探究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			
第5回	乳児期の精神と発達について愛着形成に着目して考究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			
第6回	乳幼児期の精神と発達について認知発達と言語発達に着目して考究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			

第7回	3歳児の精神と発達について知見と集団生活の具体的事例を通して学びと考察をする	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			
第8回	4歳児の精神と発達について知見と仲間関係の具体的事例を通して学びと考察をする。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			
第9回	5歳児の精神と発達について知見と道徳性・協同性の具体的事例を通して学びと考察をする。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			

第10回	児童期(学童期)前期の特徴と行動・発達と教育の関係について考究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			
第11回	児童期(学童期)後期の特徴と行動・発達と教育の関係について考究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			
第12回	生涯発達の概観について思春期・青年期・成人期・壮年期・老年期を考究する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			

第13回	親子関係・家族関係とこどもの発達との関連性について考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			
第14回	保育・幼児教育・学校教育の現場における課題を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			
第15回	特別支援教育の取り組みや社会的状況を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(90分)	(事後学習)配布資料の整理と文献や論文を参照する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(50%)、テスト授業に関するレスポンスシートや課題の内容(25%)、授業での対話・討論への参加状況(25%)によって評価する。
その他	0	なし
教科書		
保育的発達論のはじまり／川田学／ひとなる書房		
参考文献		

各回資料を配布する。

履修条件・留意事項等

各自の研究を構築していくために発達心理学および教育心理学を学ぶ位置づけの授業である。留意点として現場の経験を通してこどもの発達に関する討論等への積極的な参加が求められる。

備考欄

2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、『大学が独自に設定する科目』の『教育の基礎的理解に関する科目』区分における選択必修科目である。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達学基礎科目					
科目名		教育課程・方法特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	相馬 哲也						
授業の位置づけ							
①「教育課程・方法特論」(以下、本授業)は、こどもの学びの姿を見とり、確かな学力を獲得させるための教育方法に関し、理論と実践とを往還させながら探究する力を身につけるための科目である。 ②「教育課程・方法特別演習」、「教育内容・教材特論」、「教育内容・教材特別演習」、「教育方法実践特論」、「教育方法実践特別演習」等と接続し、教育課程論、教育方法論に関するあらたな研究の課題と方法を探究する科目である。							
授業の概要							
この授業では、保育、幼児教育や学校教育における教育課程編成のあり方を、教育現場に置ける実践と結びつけて考察を深める。特に近年重視されている対話的な学び、協同的な学びの方法に関し、テキスト、参考文献をもとに受講者にレポートしてもらい、参加者相互の対話・討論によってアクティブ・ラーニングを進める。							
到達目標							

- ①教育課程とカリキュラムの違いについて説明できる。
 ②「社会情動的スキル」(非認知的スキル)の概念を現実の学習活動にあてはめ説明できる。
 ③保育、幼児教育と学校教育との接続に関する対話的活動に意欲的に参加できる。

授業の方法

- ①パワーポイントや印刷配布物を用いて解説する。
 ②少人数のゼミ形式によってすすめる。
 ③受講者にレポートを提出してもらい、そのレポートの発表を軸に対話・討議を展開し、アクティブ・ラーニングを展開する。

ICT活用

- ・eラーニングのプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。また、参加者のレポートをプラットフォーム上で共有し、アクティブ・ラーニングを深める。

実務経験のある教員の教育内容

- ・道内公立高校に17年勤務後に、北海道教育委員会で教育行政に携わる。この間、高校のカリキュラム管理や学校経営への助言を行った。

課題に対するフィードバックの方法

- ・この授業は、受講生が相互にレポートを作成し、その報告を議論の材料として、アクティブ・ラーニングを軸に展開する。したがって授業展開のあり方全体が、常に受講生へのフィードバックによってデザインされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション: 大学院における授業の進め方	シラバスを読み、大学院における各自の研究テーマや問題意識について他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第2回	・幼稚園教育要領及び小学校指導要領の意義などについて、学校教育のしくみを踏まえて検討する。	・学習指導要領の存在意義について調べておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第3回	・幼児教育と社会情動的スキル(非認知的スキル)の関係に関し検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		

第4回	・「学力の3要素」に関し、社会情動的スキルの観点から検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第5回	・幼児教育と学校教育を接続する「アプローチカリキュラム」の編成に関し検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第6回	・「アプローチカリキュラム」としての「哲学対話」の実践を検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		

第7回	・教育における「哲学対話」の可能性を討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第8回	・学校教育の視点で「スタートカリキュラム」の編成を検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第9回	・「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」の関係に関し討議する。	・「保育所保育指針」を読む。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		

第10回	・子どもたちの「遊び」の実態に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第11回	・「学びのカリキュラム」編成に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第12回	・「対話的な学び」を軸とした授業づくりに関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		

第13回	・「協同的な学び」を軸とした学校改革に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第14回	・「習熟度別授業」の問題点に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
第15回	・授業全体をふりかえり参加者間でテーマを決め討議する。	・これまでの授業をふりかえり、他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)	・授業をふりかえり、自分の研究の問題意識との関連を考察する。(90分)
担当教員	相馬 哲也		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で活用するレポート内容(40%)、レポートの口頭発表(20%)、授業における対話、討議への活発な参加(40%)
その他	0	
教科書		
・授業内で、適宜テキストを指示します。		
参考文献		

・佐藤学(2012)『学校改革を改革する』岩波ブックレット

履修条件・留意事項等

・各自の研究を構築していくための機会として、授業における口頭発表、対話を積極的に活用してもらいたいと思います。

備考欄

・2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目です。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達学基礎科目					
科目名		インクルーシブな教育・保育特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	木谷 岐子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「家庭や地域社会の変化に伴うこども発達の実態やニーズの多様化に対応して、適切な支援、指導、教育の実践を展開できる。(知識・技能)」、「教育、保育において、多様なニーズを有するこどものインクルーシブな教育・支援を展開できる。(知識・技能)」と関係する科目である。							

1. こどもの多様なニーズを捉える視点をもつことができる。
2. 学んだ内容と、大学院生自身の経験を関連づけることができる。
3. 保育、幼児教育、および学校教育における具体的な実践と関わらせながらインクルーシブな教育・保育への取り組みを実現していく考え方について述べることができる。

授業の方法

授業は演習方式で実施し、受講者全員で授業を作り上げる参加型の方式を採用する。そこでは、各自のこれまでの経験を全体で共有できるような場を設定する。

ICT活用

Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

臨床心理士/公認心理師として、発達相談及び、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー業務に従事した実務経験を活かし、発達障がいに関する知識と理解、さらに、対応方法についての学びを提供する。

課題に対するフィードバックの方法

授業におけるディスカッション、及び複数回のレポートへのコメントによってフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション インクルーシブな教育・保育に関する社会的動向の概要を理解する。また、多様なニーズを持つ子どもに対するイメージや、各自のこれまでの対応経験を確認する。	発達障がいに対する自分の理解をまとめる(90分)	他の受講生の発言や、授業で取り扱われた内容について、重要と思われる事柄を取り上げ、まとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	ASDとはどのような障がいなのかについて、視聴覚教材等を活用しながら理解する。	ASDの特徴がある人が直面する課題について調べる。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	ASDの特徴がある人の事例を紹介しながら、どのような課題に直面しているのか理解を深める。	ASDの特徴がある人が直面する課題について調べる。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第4回	ADHDの特徴がある人の事例を紹介しながら、どのような課題に直面しているのか理解を深める。	ADHDの特徴がある人が直面する課題について調べる。(90分)	事例の課題と支援の在り方を整理する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第5回	LDの特徴がある人の事例を紹介しながら、どのような課題に直面しているのか理解を深める。	LD概念の変遷について調べる。(90分)	LDがある人がどのような課題をもつのかについてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	●こどもがもつ多様なニーズ① 発達障がい以外の視点に限らず、様々なニーズを持つこどもがいることを知り、こどもの思いに寄り添うこととは、どのようなことなのかを学ぶ。	こどもの多様なニーズについてこれまで学んできたことをまとめる。(90分)	授業で紹介された事例について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第7回	●こどもがもつ多様なニーズ② 発達障がい視点に限らず、様々なニーズを持つこどもがいることを学び、こどもを理解するための視野を広げる。	こどもの多様なニーズについてこれまで学んできたことをまとめる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、こどもがもつ多様なニーズについてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	●障がいと共にある人への社会のサポート① 障がいと共にある人への社会のサポート体制について、乳幼児期から成人期まで整備されている様々なサポートの全体像を学ぶ。	障がいと共にある人への社会のサポートについて調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、社会のサポート機能についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	●障がいと共にある人への社会のサポート② 児童発達支援の分野で行われている、こどもへの支援や、保護者への支援について学ぶ。	児童発達支援について調べる。(90分)	配付されたプリントを参考にして、児童発達支援についてまとめる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第10回	●特性シート① 発達障がいの特性をまとめるのに役立つシートを紹介する。 項目の意味や記入方法について、記入例を通して理解を深める。	自分自身の得意や苦手について書き出す。(90分)	自分の特性シートの内容を見直して、気付いたことを書き出す。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第11回	●特性シート② 自分自身の特性をシートに書き起こしてまとめる。グループ内で、互いに知識や理解を補い合いながら演習を行う。	シートの内容でわからないところがないか点検する。(90分)	自分自身の特性をまとめたシートを見直して、気付いたことなどを整理する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	●特性シート③ 教育・保育の実践現場で、多様なニーズがあるこどもについての事例をあげて、特性シートを書き起こしてまとめる。	これまでに会った、多様なニーズがあるこどもについて想起し、書き出す。(90分)	多様なニーズがあるこどもの特性をまとめたシートを見直して、気付いたことなどを整理する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第13回	●視覚的支援方法① 教育・保育の実践現場で、多様なニーズがあることについての事例をあげて、視覚的支援の方法について理解を深める。	視覚的支援方法について調べる。(90分)	視覚的支援の道具作りの設計書を完成させる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	●視覚的支援方法② 視覚的支援の道具作りの演習を通して理解を深める。	視覚的支援の道具作りの設計書を元に、必要な材料をそろえる。(90分)	視覚的支援の道具作りを通して気づいたことを整理する。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	・まとめ 15回の授業を通して得られた気づきや、考えについてレポートにまとめ、それを元にディスカッションする。	全15回の授業についての振り返りを行う。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	演習での発表及び討論への参加の積極性(50%)レポートの取組によって評価する(50%)。
その他	0	
教科書		
必要な資料はその都度配付する。		
参考文献		

続・発達障害のある女の子・女性の支援: 自分らしさとカモフラージュの狭間を生きる 金子書房

履修条件・留意事項等

この講義では、積極的な授業参加態度が求められている。

備考欄

2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、『大学が独自に設定する科目』の『教育の基礎的理解に関する科目』区分における選択必修科目である。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		教育内容・教材特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	佐々木 英明						
授業の位置づけ							
遊びを中心とする幼児期の学びと教科学習に重きを置く学童期の学びに一貫性を確保し、幼小の連続性と連携を構築することは、今日の重要な教育課題となっている。この課題に応えるために、本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別演習、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。							
授業の概要							
教育内容・教材論の今日における深化は、先行研究によれば、教育内容と教材の区別論に始まるとされる。本講義では、この論の批判的吟味を土台として、とくに幼児段階、小学校低学年段階における教育内容・教材のあり方を研究する。							
到達目標							

1.教育内容教材論の基本的な理解を形成することができる。2.幼児段階・小学校低学年段階の教育内容に関して蓄積されてきた重要教材の意義を把握することができる。3.今後、受講生自身の経験を通した課題意識をベースにして、教育内容教材について意欲的に改善・開発する基礎的力量と態度を養うことができる。

授業の方法

配布印刷物(課題など)を用いて演習形式ですすめる。
 次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

特になし。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(社会・理科)、研究部長、初任者指導教諭、保健主事、教務主任に加え、主幹教諭として指導部長を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。札幌市教育研究推進事業において小学校社会科の研究部長を務め、地域素材を教材化した実践を重ねてきた。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、家庭・地域・子育て関連の機関との連携による実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	わが国における教育内容・教材論の研究において、柴田義松が提起した教育内容と教材の区別論の意義を批判的に検討し、教育内容・教材の開発にむけて、いかなるアプローチがあるかについて、受講生全員で討論を通して研究を深める。	シラバスを十分に確認しておくこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	小学校学習指導要領および幼稚園教育要領(保育所保育指針)の歴史的変遷を概括し、わが国の学校における教育内容、教科や領域の構成の特徴と問題点を解明する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	特に、ブルーナーが提唱したとして知られている教育内容現代化は、功罪相半ばする評価を受けているが、教育内容教材論においては画期的なものであり、彼の開発したいくつかの教材の意義も含めて、その積極面と消極面について受講生間の討論を通して研究する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	これとは対照的に、日本における数学教育の現代化を打ち出していた遠山啓は、ブルーナーのそれを超現代化として批判しつつ、現代数学と認知発達心理学に学び、視覚的、操作的な「結集」可能性をもつタイルを考案した。ここに見られる「数(教育内容)」―「タイル(教材)」の関係は、教育内容教材のすぐれた典型であり、この開発プロセスと理論を深く探求し、今後の指針とする。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	前講の議論をふまえ、とくに、幼児教育における各領域と生活科をふくむ小学校低学年教科の関連を検討し、次回以降の研究の端緒とする。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	第2講、第5講の議論をふまえ、小学校の各教科の教育上の関連について検討する。例として、算数と理科に関連する「量」を取り上げ、教育内容、教材論においては、既成の枠にとらわれない発想が求められることを理解し、課題意識を高める。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	ここから、個別教科領域の研究に入る。国語においては、言語と言語活動をいかに関連づけるかが基本的な課題となっているが、解決されているとは言い難い。これについて、すぐれた事例を紹介しながら適切な教材を探索する作業を課す。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第8回	前講に引き続き、院生が探索した教材について検討し、その適切性について受講生全員による討議を通して、今後の課題とする。なお、幼児期における規範性の高い言語教材である絵本と言語の発達の関係についても、同様の視点から課題を把握する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第9回	数量の認識については、既に例示したタイルにくわえ、長さ、液量を素材として、量の計測にいたる4段階指導などの成果を紹介しつつ、いくつかの教科書・教材について、批判的に吟味し、対案を立てる作業を課す。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第10回	前講に引き続き形で、院生の対案を院生同士で吟味し、より適切なものとなりうるよう支援し、完成させる。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第11回	幼小の連続を考案する素材として、数量の認識形成の問題をとりあげる。ピアジェの研究を土台とし、これに現代数学の視点を重ねて遠山啓が提案した「未測量」「原数学」などの考えに学び、提示する教材と活動の組織のあり方について検討する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第12回	前講に引き続き、家庭生活の中で獲得する数唱についてとりあげ、これらが基数及び序数の認識にいかにつながる(つなげる)のか検討する。あわせて、日本の数唱に特有の和語と漢語の混用、助数詞の汎用など、数認識に関わる問題について研究する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第13回	領域「環境」「人間関係」と低学年理科・社会を包含する面をもつ生活科との関連について、あらためて具体的に検討する。その際、教科の目標と論理相反しかねない生活科教科書を取り上げ、記述内容を素材として、この領域、教科における教育内容・教材論への示唆をさぐる。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第14回	道徳が教科として、新たに設定される動きをふまえ、道徳的発達に関する理論を学び、とくに規範(ルール)と社会関係に焦点をあてて、どのような教材と活動の組織が適切かについて、受講生自身の経験を通した課題意識を通してながら検討を試みる。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第15回	これまでの研究をふまえ、自ら検討・開発しようとした試みを土台に、教育内容・教材論、とくに教材が満たすべき要件についての議論を深める。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(90分)	レポート作成に向けて、すべての返却された課題や資料などに必ず目を通し、復習を行うこと。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題レポート(70%)及び討論内容(30%)
その他	0	なし。
教科書		
講義資料はその都度、レジュメを事前に配布する。		
参考文献		

柴田義松『教育課程論』(第二版)学文社

履修条件・留意事項等

教育内容・教材特別演習も履修すること。

備考欄

2022(令和4年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」、「小学校教諭専修免許状」に関する教職課程の科目でもあり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目である。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		教育方法実践特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡邊 堯宏						
授業の位置づけ							
本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別研究、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。							
授業の概要							
教育実践は教育目標を子ども・家庭・地域社会の実態を考慮して具体化した教育計画のもとで、しかもそのときどきに生起する諸事態に臨機応変に対応しつつ行われる。今日の実践論の土台の一つとなったのは技術的实践と反省的实践の区分と反省的实践を推奨する先行研究であった。このような先行研究の批判的な検証を機軸として本講義を展開する。内容上、教育とケアの統合、方法原理としての「遊び」、今日の課題である幼小の連携、家庭・地域社会との連携等についての先行事例、先行研究を吟味し、あわせて受講生自身の経験を通した課題についても討論を通して明らかにし、主体的学習を通して教育実践に向けての理論的基礎を構築する。							
到達目標							

1. 幼児教育実践の意義と方法を理解する。
2. 幼児教育実践の全体像を理解し、個々の実践を位置づけることができる。
3. 幼児教育実践にむけて、理論に裏付けられた確信をもとに、意欲的に臨むことができる。

授業の方法

テーマに基づいて各自の取りまとめと討論を中心に進める。

ICT活用

ICT機器を活用しながら、保育の実践の映像を分析したり、まとめを行っていく。

実務経験のある教員の教育内容

保育園、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務、管理職業務の経験をもとに、保育・幼児教育現場における実践的な思考を伝えていく。

課題に対するフィードバックの方法

課題意識、新たな課題はその都度、授業中に取り上げる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	幼児期の教育に係る実践と制度に係る課題等、授業の展開を紹介し、授業の目標、評価、進め方、受講に係る留意事項を説明する。 特に、本講義では、大学院生それぞれが経験を通した課題をの場を提供することを説明する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			
第2回	教育実践が、単に「環境の整備と適応」にとどまるものではなく、綿密な計画にもとづく実践であること、そのことを通して子ども一人ひとりの発達の実現を目指すものであることを、先行諸説の検討を踏まえ明らかにする。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			
第3回	教育実践が計画的な実践でありながら、その時々を生起する事態にいかに対応すべきかについて、技術的实践、反省的实践などの用語で語られる先行研究の批判的検討をもとに研究する。 実践が、臨機応変な柔軟なものであるべきことを、これまでの教育方法理論の蓄積をふまえて考察する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			

第4回	フレーベル、モンテッソーリなどの先達の理論と実践について今日の実践に生かすべき基本原理を、これらを評価する諸説に学びながら確認する。 実践における計画の基礎となる学習指導要領、幼稚園教育要領(保育所保育指針)の今日に至るまでの変遷を概観し、これらに反映している時代の要請と理論的背景を考察する。 その際デューイ・ブルーナー、ヴィゴツキーらの諸説にも触れる。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			
第5回	さらに、幼児教育実践の基本課題である「教育とケア」の統合について、幼保一元化論を含めた諸説に学び、認定こども園などの可能性を含め、実践の指針を明確にする。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			
第6回	幼小教育課程の一貫性が求められる今日において、教育方法、教育実践の上においても、幼小の連続性が問われている。 この課題についても、先行する諸説、諸例に学びつつ研究を深める。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			

第7回	幼児教育・保育施設と家庭の緊密な連携が求められている。これがいかにあるべきかについて、事例(例えば北海道文教大学附属幼稚園の実践)を研究し、課題を探る。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			
第8回	幼児教育・保育施設と地域社会の連携が問われている。これについても、事例(例えば、恵庭市のこども課の実践事例など)を研究し、課題を探る。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			
第9回	遊びを中心とする幼児教育実践においては、基本的には計画的な環境構成が重要である。この環境構成の様々な事例とそのもとでの支援のあり方について研究する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			

第10回	幼児教育方法における「遊び」について、その特質にもとづく分類とそれぞれの機能について、先行研究をふまえ研究を深める。 (例えば、身体運動遊び、創造的工作遊び、役割遊び(ごっこ遊び)、知的遊び、劇遊びなど)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			
第11回	幼児教育における伝統的な「仕事」(いわゆる「真剣な遊び」)の今日的意義を再検討し、先行研究に学び、教育実践に生かす方途を研究する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			
第12回	役割遊びや知的遊び、劇遊びなどを行事等に結びつけるなどの実践のあり方について、受講生全員で討議を重ね研究を深める。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			

第13回	遊びによらない教育実践も必要であり、これについても、とりたて指導や行事指導のあり方を中心に、受講生全員で情報を交換し、研究を深める。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			
第14回	札幌市の全区がそれぞれに行っている幼保小連携協議会の各区の実践の事例を受講生が、各自持ち寄り、それらの実践事例を通して、新しい実践方法の研究に取り組む。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			
第15回	まとめてとして、「幼児教育」「保育」実践が家庭教育を含む幼児期の教育の実践に広がりを持つために視点の確認と視野をさらに広げる必要性について討論し、考察する。	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(20分)	授業ごとに課題ないし記録を指示する。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	先行研究等の読み込及び課題のまとめの内容により評価する。
その他	0	
教科書		
特に定めない		
参考文献		

都度指定する

履修条件・留意事項等

常に課題意識を高く維持することを求める。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		特別支援教育コーディネーター特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	村田 敏彰						
授業の位置づけ							
インクルーシブ教育システムに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズをもつ子どもへの対応が求められており、この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置している。保護者支援特論、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援 教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の8科目が設定され、本講義特別支援教育コーディネーター特論があり、中堅の指導者にとって重要な内容になっている。							
授業の概要							
教育・保育職における特別支援教育は、子どもの権利及び学習・発達を保障していく観点から不可欠なものになっている。本講義では、従来の「特殊教育」から「特別支援教育」への広がりの中で、特別支援教育の一人ひとりの発達に即した支援のあり方が、全ての教育の基底として重要なことを学習し、コーディネーターとしての力量形成の手がかりを研究する。							
到達目標							

1. 特別支援教育コーディネーターに求められる資質能力や専門性について理解することができる。
2. 特別支援教育コーディネーターの役割について、理解することができる。
3. 様々な実践事例を通して、特別支援教育コーディネーターとしての力量を高めることができる。

授業の方法

授業は演習方式で実施し、受講者全員で授業を作り上げる参加型の方式を採用する。そこでは、各自のこれまでの経験を全体で共有できるような場を設定する。また、必要に応じて文部科学省通知や先行研究を素材にして理解を深めることが出来るような機会を提供する。

ICT活用

パワーポイントを使用して、プレゼンテーションを印象的に提示する。また、グーグルフォームやジャムボードを効果的に活用し、受講生相互の意見交流を図る。

実務経験のある教員の教育内容

小・中学校教員として32年間勤務した。この間、通常学級担任・教頭・校長として、また、12年間特別支援教育コーディネーターとして、校内支援体制整備、教育相談、心理アセスメント等に携わった。インクルーシブ教育の推進に関わっては個・学級・学校のそれぞれのレベルで、個別支援や交流学級、学びのユニバーサルデザインの視点に立った授業作り、校内支援委員会の運営や人材育成等に取り組んできた。授業ではこれらの経験に加え、現場で日常的に起こっているエピソードを数多く取り上げながら、学生とのコミュニケーションを重視し、より実践的な授業づくりに努める。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルームの課題提出やグーグルフォームの振り返りシートを活用し、質問に答えたり、アドバイス等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション 受講生の現状や実践について情報交換し、コーディネーターに求められる役割について各自の意見を述べ合い、特別支援教育コーディネーターの役割についての輪郭を把握する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第2回	特別支援教育の校内支援体制と特別支援教育コーディネーターの位置づけ 各自、重要と思われる資料や自身の実践資料を持ち寄り、それらの資料をベースにして全体で討論をし、その専門性について共通理解を図る。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第3回	特別支援教育コーディネーターの役割 文部科学省や各学校・園の分掌や経営計画から、特別支援教育コーディネーターの役割について学習する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第4回	特別支援教育コーディネーターに求められる資質能力 文部科学省通知や先行研究より、特別支援教育コーディネーターに求められる資質や能力について理解し、受講生の実践や現場の現状を踏まえながら討議する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第5回	個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成 校内支援体制の推進に向けた、実効性のある指導計画の在り方や作成のポイントについて理解する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第6回	子どもの実態把握に活かす心理アセスメントの活用① WISC－ⅣならびにWISC－Ⅴの理論的背景について理解し、具体的な実施方法について学習する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第7回	子どもの実態把握に活かす心理アセスメントの活用② WISC-ⅣならびにWISC-Ⅴの結果分析について理解し、個別の教育支援計画・指導計画作成や日常の具体的支援について学習する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第8回	子どもの実態把握に活かす心理アセスメントの活用③ KABC-Ⅱの理論的背景について理解し、具体的な実施方法について学習する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第9回	子どもの実態把握に活かす心理アセスメントの活用④ KABC-Ⅱの結果分析について理解し、個別の教育支援計画・指導計画作成や日常の具体的支援について学習する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第10回	校内支援委員会の運営と特別支援教育コーディネーターの関わり 実効性のある校内支援委員会の運営のためのポイントについて、受講生の現場の現状を交流しながら学習する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第11回	特別支援教育コーディネーターの連絡調整について① 教育相談をもとにした、保護者との連携について、事例をもとに検討する	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第12回	特別支援教育コーディネーターの連絡調整について② 学級担任からの相談に基づく担任との連携について、事例をもとに検討する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第13回	特別支援教育コーディネーターの連絡調整について③ 学級担任と保護者の円滑な連携に向けたコーディネーターの関わりについて、事例をもとに検討する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第14回	特別支援教育コーディネーターの連絡調整について④ 関係機関との円滑な連携に向けたコーディネーターの関わりについて、事例をもとに検討する。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第15回	最終課題を提示するので、課題についての疑問点を質問したり自分の理解を確認する。特別支援教育についての深い考察が求められる。	シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について読み込みをしておく。(90分)	講義全体を振り返り、今後さらに学びを深めたいことについて整理すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回の授業における発表資料及び指定文献をベースにしたレポートを総合的に判断し、評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

デキる「特別支援教育コーディネーター」になるための30レッスン&ワークショップ事例集
小野寺 基史, 青山 眞二, 五十嵐 靖夫 明治図書

履修条件・留意事項等

各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		保護者支援特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	植木 克美						
授業の位置づけ							
インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきた。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置している。具体的には、保護者支援特論、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援 教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の8科目が設定されている。							
授業の概要							
子育て支援、家庭支援について教育者・保育者が担い得る役割、教育・保育の専門性について学び、それらを教育・保育実践と研究において活用する力を養う。 保護者との関係づくりによる個別支援、困難かつ複雑な課題に対する多職種(機関)連携、など、様々な子どもに対する家庭支援について教育者・保育者が担いうる役割、現代的課題について教育・保育の専門性を高める視点から学ぶ。特に、発達面に課題がある子どもの保護者が抱える課題について、学校・保育現場はどのように関わってきたか、先達の知見を概観しながら、保護者支援のあり方について理解を深める。							
到達目標							

1. 学校・保育現場の保護者支援における実践事例について理解を深め、それに対する自分の考えを表明できるようになる。
2. 学校・保育現場の保護者支援における学校教師・保育士の専門性について、先達の実践事例から学び、理論と結びつけながら論考することができるようになる。
3. 学校教師・保育士の教職生活全般通じた学校内・園内における役割の変化、専門性の深まりについて理解し、それに応じた保護者支援を構想できるようになる。

授業の方法

実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開する。そのために、以下の方法をとる。パワーポイントと配布印刷物を活用しながら講義形式で進めた後、ディスカッションを毎回実施する。

ICT活用

授業内容と関連する保護者支援に関するHPの情報を提供し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

幼児のこたばの教室指導員として幼児の教育相談を担当した実務経験、そして精神発育相談員として、1歳半健診、3歳健診において、発達面の遅れの疑いのある幼児と保護者を対象に、心理相談を行った実務経験、さらに障害児保育事業における巡回指導専門員として保育所に在園している障害をもつ幼児の保護者および保育園の職員を対象に相談助言の実務経験等活かして保護者支援について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	学校・保育現場における保護者支援の現状と背景 保護者支援の困難性、特に学校教師の抱える困難性を理解し、その背景にある保護者の変化、保護者と学校・園の関係性の変化等の背景にある子育てを巡る現代的課題について検討する。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	学校・保育現場の保護者支援における専門性(1) 学校教師、保育士の行う保護者支援の専門性について、コンプライアンス、インフォームド・コンセント等の概念を踏まえながら、「子どもの最善の利益という」観点から検討していく。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	学校・保育現場の保護者支援における専門性(2) 学校教師、保育士の行う保護者支援の専門性について、保護者を子どもの発達援助を共に担うパートナーとして尊重し、合意形成を図っていくための理論的背景を踏まえながら、理解を深める。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	保育場面における保護者支援の実際と課題(1)～「気になる子ども」の保護者支援 保育場面における、「気になる子ども」の保護者との関係の中で現れる保育士の困難性について、学術論文を購読し論考を深める。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	保育場面における保護者支援の実際と課題(2)～発達面に課題のある子どもの保護者支援① 保育場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、精神疾患が疑われる保護者との関係の中で現れる保育士の困難性とその専門性の深まりについて、保育士に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	保育場面における保護者支援の実際と課題(2)～発達面に課題のある子どもの保護者支援② 保育場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、かかわりが難しい保護者との関係の中で現れる保育士の困難性とその専門性の深まりについて、保育士に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	学校場面における保護者支援の実際と課題(1)～若手教師の保護者支援 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる若手学校教師の困難性とその専門性の深まりについて、学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	学校場面における保護者支援の実際と課題(2)～中堅教師の保護者支援 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる中堅の学校教師の困難性とその専門性の深まりについて、学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	学校場面における保護者支援の実際と課題(3)～熟年教師の保護者支援① 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる熟年の学校教師(特別支援学級担任)の困難性とその専門性の深まりについて、学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	学校場面における保護者支援の実際と課題(3)～熟年教師の保護者支援② 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、理解を得ることが難しい保護者との関係の中で現れる熟年の学校教師(通常学級担任、管理職)の困難性とその専門性の深まりについて学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	学校場面における保護者支援の実際と課題(4)～若手教師の保護者支援を同僚として支える 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者支援において、困難を呈する若手教師を同僚教師として支えるという実践事例について、熟年の学校教師に対する聞き取り調査の結果から検討を深める。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	学校場面における保護者支援の実際と課題(5)～養護教諭による保健室登校児童の保護者支援 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者のうち、保健室登校をする児童の保護者の支援を行う養護教諭の役割を学級担任、管理職等の学校内の連携・協働の観点から、養護教諭に対する聞き取り調査の結果を踏まえて、検討を深める。	(準備学習)事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	学校場面における保護者支援の実際と課題(6)～特別支援教育コーディネータによる保護者支援 学校場面における、保護者の相談窓口としての役割を担う特別支援教育コーディネータが行う、学校内外の他職種、他機関連携による、発達面に課題のある子どもの保護者支援について、実践事例から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	学校場面における保護者支援の実際と課題(7)～特別支援学級担任の保護者支援 学校場面における、発達面に課題のある子どもの保護者支援において、特別支援学級担任が放課後等デイサービスの職員と連携して行う保護者支援について、実践事例から検討を深める。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	授業全体のふりかえり これまでの授業内容を踏まえ、教育・保育の質を高める観点から保護者支援のあり方についてディスカッションを行う。	(準備学習) 事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	最後に授業内容をふりかえるレポートの提出を受講生に求める。
その他	50	各回におけるディスカッションへの参加度、発言内容(内容の具体性、妥当性、論理性)を評価対象とする。
教科書		
小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府、文部科学省、厚生労働省) 合わせて、講義担当者作成のペーパー資料を配布する。		
参考文献		

シリーズ臨床発達心理学・理論と実践③「保育のなかでの臨床発達支援」秦野悦子・山崎晃編著 ミネルヴァ書房 2011年
教育現場の「コンピテンシー評価」、「見えない能力」の評価を考える 渡部信一編著 ナカニシヤ出版 2017年

履修条件・留意事項等

各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。

備考欄

2022年(令和4年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」、「小学校教諭専修免許状」に関する教育課程の科目でもあり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目である。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		こども発達支援・臨床相談特論				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	山本 愛子						
授業の位置づけ							
インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となっています。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目(8科目)が配置されており、本科目はそのなかの一つです。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「教育・保育において、多様なニーズを有することのインクルーシブな教育・支援を展開できる」に関わる科目として位置付けています。							
授業の概要							
乳幼児期・児童期の子どもの発達支援の手掛かりとしての心理臨床について学習します。ここでは、特に、発達面に課題のある子どもたちのコミュニケーション力を育成するために開発された「関係力育成プログラム」を中心に、遊戯療法及びカウンセリングの理論と実際を重点的に学ぶことを通して、子どもの発達を支えるための相談・支援のあり方について研究します。							
到達目標							

乳幼児期・児童期の子どもたちへの支援・相談活動について、発達臨床心理学的な視点から学びを深め、それに基づいて、発達支援における課題解決・発展のための手立てを見出すことができるようになることを目標とします。

授業の方法

実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験を通じた課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開します。

ICT活用

この授業では、クリッカー（反応収集提示装置）による子どもの行動分析を行います。ここでは、特に集団遊戯療法場面をクリッカーを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、遊戯療法の理論と実際に関する理解を深めます。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。また、授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていきます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーションおよび講義担当者の発達支援・心理臨床に関する学習の軌跡と臨床実践を紹介します。ここでは、講義の内容や目的、進め方、受講にあたっての留意事項等についての説明を行います。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第2回	発達支援・相談における対象者の特性(抱えている課題・関連する要因等)について、受講生それぞれが描くイメージ・意見の交換およびKJ法による分析体験を通して、対象の輪郭を明らかにします。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第3回	子どもの発達とカウンセリングに関わる理論(1)発達支援において、子どもの特性や家庭背景、心理的な課題・状況に関わるカウンセリングの基礎となる理論について学びます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第4回	子どもの発達とカウンセリングに関わる理論(2)カウンセリングに関わる理論を学び、子どもの特性や心理的な課題・状況に対する臨床心理学的なアプローチの技法について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第5回	発達支援と心理アセスメント(1)子どものカウンセリングにおける心理アセスメントの意義とその方法について学びます。ここでは、特に、行動観察、生活記録の方法について学び、子どもの特性を捉えた支援のあり方について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第6回	発達支援と心理アセスメント(2)発達支援における心理アセスメントの意義と方法について学びます。ここでは、投影法としての描画テスト、ロールシャッハテスト、文章完成法テストの位置づけについて学習します。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第7回	発達支援における遊戯療法の理論と実際(1)心理療法における遊戯療法の位置づけと意味について理解を深めます。ここでは、これまでに学んできたカウンセリングに関わる理論と遊戯療法との関係性について学ぶことを通して、発達支援における遊戯療法の意味について考えていきます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第8回	発達支援における遊戯療法の理論と実際(2)発達支援における「関係力育成プログラム」に関して映像資料を視聴しセラピストの構成と役割を中心に学びます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第9回	発達支援における遊戯療法の理論と実際(3)発達支援における行動観察について学びます。ここでは、関係力育成プログラムによる集団遊戯療法場面に基づいて、子どもの行動観察の理論と実際について理解を深めます。また、クリッカーを活用した実際の分析体験を通して、実践的な学びを深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第10回	遊戯療法と音楽療法のかかわりを通して見る生涯発達支援(1):生涯発達支援における臨床の場を構築するための音楽療法について学習を深めます。ここでは、遊戯療法の世界と音楽療法の関係性について学びます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第11回	遊戯療法と音楽療法のかかわりを通して見る生涯発達支援(2):関係力の育成に関わる音楽療法について学習を深めます。また、音楽療法の実践に関する映像資料の視聴を通して、生涯発達支援における音楽療法の意義について学びを深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第12回	子どもの家族関係に関する支援の理論と実際(1):ここでは、子どもの家族関係に視点をあて、家族療法に関する文献の講読を通して、家族療法の理論の基本的な考え方について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			

第13回	子どもの家族関係に関する支援の理論と実際(2):家族療法における臨床心理学に基づいたアセスメントの体験・分析を通して、この療法の有用性について理解を深めます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第14回	実践事例を通した子どもの発達支援・臨床相談の理解:ここでは、これまでに講義を通して学んできたことを総合して、発達支援に関わる相談事例を想定し、対象の見立てから支援の内容まで、受講生自身が検討していきます。設定された子どもの相談事例について検討することを通して、課題解決・発展のための手立てを分析していきます。	各回の講義の最後に次回の準備学習について説明する。(90分)	配布資料を読んで講義の流れと留意事項を理解すること。(90分)
担当教員			
第15回	講義の振り返りと学習の成果の確認:ここでは、この講義で学んだことについて、全体のまとめ・意見交換を行います。	これまでの講義の振り返り、提示したテーマに基づいてレポートを作成する。(90分)	講義全体を振り返り、今後さらに学びを深めたいことについて整理すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業場面への参加態度、グループでの活動状況、課題提出により評価します。また、行動観察・分析に関するレポート課題の提出によって評価します。
その他	0	特にありません。
教科書		
教科書の指定は行いません。必要な資料はその都度配布します。		
参考文献		

育児のなかでの臨床発達支援 藤崎真知代・大日向雅美編著 ミネルヴァ書房

履修条件・留意事項等

グループによる体験学習、テーマに関する分析・討論の取組が含まれます。そのため、積極的な参加態度が求められるので留意してください。

備考欄

2022年(令和4年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」「小学校教諭専修免許状」に関する教育課程の科目でもあり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目です。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		実践力の基礎科目群 こども発達支援教育関連科目					
科目名		特別支援教育方法特論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	後藤 広太郎						
授業の位置づけ							
インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきた。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目群を配置している。特別支援教育方法特論はこれらの講義の中核を占める課目として位置づけられている。なお、これらの科目群は、心理臨床の分野を目指す院生の学習を下支えする科目群として重視されている。							
授業の概要							
特別支援教育の全体像を明らかにするために、「障害とはなにかという」という問いを通して、①子どもたちのもつ行動の特徴(発達要求の弱さ: X)、②子どもを取り巻く環境の側の応答の不十分さ(Y)、③子どもの中に累積される歪み(Z)、のそれぞれの問題を発達論的かつ関係論的に捉えていく中で、障害という問題を構成している諸要因について理解を深める。それらの基礎的理解に立って、このXの要因とYの要因とZの要因が掛け算的に組み合っ、て、「障害という問題」を構成していることを学習する。その学習の中で、特別支援教育の基本的な枠組みについて理解を深める。							
到達目標							

- ① 障害という問題を構成している要因のそれぞれについての学習を通して、障害のあるこどもたち抱える問題の全体像を説明できる。
- ② 特殊教育からの移行の経過を踏まえて特別支援教育を説明できる。
- ③ 特別支援教育における環境設定、教師のかかわりについて討議できる。
- ④ クリッカーによる行動分析の結果をわかりやすく説明できる。

授業の方法

この科目では、ビデオ資料による発達面に課題を持つ幼児児童の行動観察及びクリッカーを活用して、授業分析、保育実践場面や発達支援活動の振り返りのために収集されたビデオ映像等から可視化グラフを作成し、グラフの特徴と対応するビデオ映像を再生して、お互いの行動分析の特徴を提示し合いながら共同でディスカッションを可能にする、クリッカー「反応収集分析装置(PF-NOTE)」を導入した授業を展開する。パワーポイントと配布物を用いて方法を説明した後に、ディスカッション、PF-NOTEを用いた実習を行う。

ICT活用

PF-NOTEのクリッカー機能を用いた実習を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

幼児のこたばの教室指導員として幼児の指導を担当した実務経験、そして精神発達相談員として、1歳半健診、3歳健診において、発達面の遅れの疑いのある幼児と保護者を対象に、心理相談を行った実務経験、さらに障害児保育事業における巡回指導専門員として保育所に在園している障害をもつ幼児の保育園の職員を対象に相談助言の実務経験等活かして、特別支援教育方法特論について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	発達と発達障害について学習を深め、子ども発達の理解が特別支援教育の学習を深めるために重要であることを理解する。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	WHOの「障害」「能力」概念をめぐるパラダイムシフトについて理解し、発達と環境の関係について理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	人間の発達と生態学的環境(生態学的環境モデル、Bronfenbrenner,U.)について学び、特別支援教育を多次元、多層的に理解する。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	子どもの発達について、不登校と発達障害、学習と発達障害の視点から理解を深める。合わせて、発達障害の特性を環境との関係から理解することが重要であることを学ぶ。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	特別支援における基礎的環境整備、合理的配慮について、我が国の政策動向を踏まえて学ぶ。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	クリックカーによる行動分析のオリエンテーションとして、行動観察の歴史を学び、行動観察について理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	行動評定の実習を行うにあたって、行動評定の概要、観察者の知覚的・認知的バイアスについて理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	PF-NOTEを活用して、クリッカーによる行動評定を行い、各自が自分の行動評定の結果について発表する。そして、結果について協議することで、互いがもつ認知的枠組みについて理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	特別支援教育において活用される教材としての絵本について、発達のドーナッツ(佐伯)を用いて学び、発達に特別な支援を要する幼児指導の学びについて理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第10回	発達に支援を要する幼児児童生徒の学びを状況論の観点から理解するために、幼児期から青年期に渡る発達の過程をビデオ教材により学び、受講生同士のディスカッションを通して理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第11回	「関係力育成プログラム」を活用した指導の実際についての視聴覚資料を視聴し、討論を通してこのプログラムの特徴について自分の考えを深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	「関係力育成プログラム」によるロールプレイ体験をし、この指導法の持つ意味について考える。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			

第13回	「関係力育成プログラム」によるロールプレィをビデオで撮影し、ロールプレィ後にPF-NOTEを活用して、クリッカーで分析を行い、レポートを作成する。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	各自持ち寄った「関係力育成プログラム」によるロールプレィ体験の振り返りのレポートを素材にして、討論を実施し、お互いの情報を共有する。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
第15回	クリッカーの結果と振り返りのレポートから、特別支援教育における幼児児童の学びを深める教材、教室環境、教師のかかわりについて理解を深める。	事前に、配布された講義資料に目を通しておく。(90分)	事後学習として、授業履歴シートのふりかえり項目を学習しておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	最後に授業内容をふりかえるレポートの提出を受講生に求める。
その他	50	各回におけるディスカッションへの参加度、発言内容(内容の具体性、妥当性、論理性)を評価対象とする。
教科書		
講義プリントを配布する。		
参考文献		

なし。

履修条件・留意事項等

各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		こども発達特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	小林 美花、山本 愛子、美馬 正和、渡邊 堯宏						

授業の位置づけ

「こども発達特別演習」は、家庭や地域社会の変化に伴うこどもの発達の実態や、多様化するニーズに対して適切な支援、指導、教育の実態を展開し、教育・保育においてインクルーシブな支援を考究するための学問であり、こども発達支援教育関連演習の科目である。また、「こども発達特論」の講義内容と関連して、教育の基礎的理解に関する科目でもある。

授業の概要

- ① 発達の知見に関してピアジェとヴィゴツキーの二大発達理論を基に認知発達とワロンの発達論を基に自己意識を中心に学ぶ。
- ② 精神発達を発達心理学と教育心理学の関連分野から考察する。
- ③ こどもの発達理論に関する研究や主要論文など取り上げ、そのテーマを演習形式で議論する。

到達目標

- ①人間の精神発達に関する発達理論の知見の学びを、学生が得られるようになること。
 ②「こども発達特論」の講義内容と関連付けして年齢別に発達段階の探求を、学生ができるようになること。

授業の方法

教科書、プリントを使用した講義形式ならびにディスカッション形式で行う。必要に応じてDVDなどの映像資料を用い、理解を深める。適宜、授業内でリアクションペーパーを配布する。リアクションペーパーの意見、感想は、次回の講義に反映させる。授業内の小レポートで、学習内容の確認を行う。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

乳児専門の保育所において保育士として勤務した経験を活かし、特に乳児期の発達、保育内容について授業を行う。(小林)
 乳幼児健康診査で発達相談、国立大学の研究機関で発達障害、社会的養護の研究に従事、大学の教員などこども発達学に関する実践的経験を有する。以上の経験を活かし、授業を行う。(美馬)
 公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関での臨床経験を有している。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。(山本)
 幼稚園、保育所、学童保育、放課後デイサービスなどの多様な現場の経験を基に子どもの発達に関する視点を文献や実践を基に指導を行う。(渡邊)

課題に対するフィードバックの方法

小レポート、リアクションペーパーに記入された受講生の意見を共有、フィードバックする時間を設ける。課題に対しては、コメントを返します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	「発達」の定義」と生涯発達とは何か？発達に関する学説の研究を分析して考察する。	(準備学習) 事前に配布されたシラバスに目を通しておく。(20分)	(事後学習) 配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小林 美花		
第2回	「乳児期の環境と認知機能の発達」を理解すると同時に乳児を対象とした研究方法を学ぶ。	(準備学習) シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習) 配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小林 美花		
第3回	「愛着の形成」について愛着に関する理論を学び、愛着と発達の関連性を考察する。	(準備学習) シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習) 配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小林 美花		

第4回	「乳幼児の言語発達」について言語獲得のメカニズムと文法能力の発達段階を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	小林 美花		
第5回	「幼児の認知発達」を理解すると同時に認知発達に関する学説の研究を分析して考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	美馬 正和		
第6回	「幼児期の遊びの発達」について、こどもの発達と遊びと仲間関係の関連性を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	美馬 正和		

第7回	「こどもの自己意識の発達」について学び自己意識に関する学説の研究を分析して考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	美馬 正和		
第8回	「こどもの道徳性の発達」について環境要因と認知発達との関連性を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	美馬 正和		
第9回	「児童期の思考と記憶の発達」を理解すると同時に論理的操作と記憶方略の発達を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	山本 愛子		

第10回	「こどもの性役割」について社会的学習、認知発達、精神分析の理論を基に考察す	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	山本 愛子		
第11回	「生涯発達」について人間が抱える問題の心理的・社会的背景を理解して考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	山本 愛子		
第12回	「こどもの発達と教育」について関連分野の学説の研究を分析して考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	山本 愛子		

第13回	「こどもの発達と家族関係」について親子関係に着目して発達に及ぼす影響を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第14回	「パーソナリティの発達」についてパーソナリティに関する理論と知見を学び考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	渡邊 堯宏		
第15回	「こどもとメディア」に着目して、こどもの社会認知と発達に及ぼす影響を考察する。	(準備学習)シラバスに目を通して授業テーマに関する文献および専門用語について、読み込みをしておく。(30分)	(事後学習)配布資料の整理と文献と論文を参照する。(30分)
担当教員	渡邊 堯宏		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に関するレスポンスシートや課題の内容(50%)、授業での対話・討論への参加状況(50%)によって評価する。
その他	0	なし
教科書		
「よくわかる発達心理学」ミネルヴァ書房、「よくわかる教育心理学」ミネルヴァ書房、「ベーシック発達心理学」東京大学出版会		
参考文献		

各回資料を配布する。

履修条件・留意事項等

各自の研究を構築していくために発達心理学および教育心理学を学ぶ位置づけの授業である。留意点として現場の経験を通してこどもの発達に関する討論等への積極的な参加が求められる。

備考欄

2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、『大学が独自に設定する科目』の『教育の基礎的理解に関する科目』区分における選択必修科目である。

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		教育課程・方法特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	佐々木 英明、白幡 知尋						
授業の位置づけ							
①「教育課程・方法特論」(以下、本授業)は、こどもの学びの姿を見とり、確かな学力を獲得させるための教育方法に関し、理論と実践とを往還させながら探究する力を身につけるための科目である。 ②「教育課程・方法特別演習」、「教育内容・教材特論」、「教育内容・教材特別演習」、「教育方法実践特論」、「教育方法実践特別演習」等と接続し、教育課程論、教育方法論に関するあらたな研究の課題と方法を探る科目である							
授業の概要							
この授業では、保育、幼児教育や学校教育における教育課程編成のあり方を、教育現場に置ける実践と結びつけて考察を深める。特に近年重視されている対話的な学び、協同的な学びの方法に関し、テキスト、参考文献をもとに受講者にレポートしてもらい、参加者相互の対話・討論によってアクティブ・ラーニングを進める							
到達目標							

- ①教育課程とカリキュラムの違いについて説明できる。
 ②「社会情動的スキル」(非認知的スキル)の概念を現実の学習活動にあてはめ説明できる。
 ③保育、幼児教育と学校教育との接続に関する対話的活動に意欲的に参加できる。

授業の方法

- ①パワーポイントや印刷配布物を用いて解説する。
 ②少人数のゼミ形式によってすすめる。
 ③受講者にレポートを提出してもらい、そのレポートの発表を軸に対話・討議を展開し、アクティブ・ラーニングを展開する。

ICT活用

- ・Google Workspace for Educationを活用し、資料の配布、課題の提出等を行う。必要に応じて遠隔授業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(社会・理科)、研究部長、初任者指導教諭、教務主任、主幹教諭を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。勤務してきた学校では、小中一貫した教育の推進や幼保小連携の実務担当者として、小学校と中学校や幼稚園・保育園との学びの接続について、推進役を担ってきた。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・この授業は、受講生が相互にレポートを作成し、その報告を議論の材料として、アクティブ・ラーニングを軸に展開する。したがって授業展開のあり方全体が、常に受講生へのフィードバックによってデザインされる。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーション: 大学院における授業の進め方	シラバスを読み、大学院における各自の研究テーマや問題意識について他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	・新しい幼稚園教育要領及び小学校指導要領を、社会情動的スキルの面から検討する。	・社会情動的スキルとは何か、について調べておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	・幼児教育と社会情動的スキル(非認知的スキル)の関係に関し検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	・「学力の3要素」に関し、社会情動的スキルの観点から検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	・幼児教育と学校教育を接続する「アプローチカリキュラム」の編成に関し検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	・「アプローチカリキュラム」としての「哲学対話」の実践を検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	・幼児教育における「哲学対話」の可能性を討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第8回	・幼児期の遊びと育ちをふまえた「スタートカリキュラム」の編成を検討する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	佐々木 英明		
第9回	・「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」の関係に関し討議する。	・「保育所保育指針」を読む。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		

第10回	子どもたちの「遊び」の実態に関し参加者間で討議する。	前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第11回	「学びのカリキュラム」編成に関し参加者間で討議する。	前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第12回	「対話的な学び」を軸とした授業づくりに関し参加者間で討議する。	前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		

第13回	・「協同的な学び」を軸とした学校改革に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第14回	・「習熟度別授業」の問題点に関し参加者間で討議する。	・前回の授業で示された参考文献を読み、自分の主張を根拠にもとづきまとめておく。(90分)	・授業で配布された資料を熟読する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
第15回	・授業全体をふりかえり参加者間でテーマを決め討議する。	・これまでの授業をふりかえり、他の参加者と対話できるよう準備する。(90分)	・授業をふりかえり、自分の研究の問題意識との関連を考察する。(90分)
担当教員	白幡 知尋		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業内で活用するレポート内容(40%)、レポートの口頭発表(20%)、授業における対話、討議への活発な参加(40%)
その他	0	
教科書		
・授業内で、適宜テキストを指示します。		
参考文献		

- ・川口創+平松知子(2017)『保育と憲法』大月書店
- ・近藤幹生(2018)『保育の自由』岩波新書
- その他、授業内で適宜紹介する。
- ・佐藤学(2012)『学校改革の哲学』東京大学出版会.
- ・佐藤学(2021)『第四次産業革命と教育の未来 ポストコロナ時代のICT教育』岩波書店

履修条件・留意事項等

- ・各自の研究を構築していくための機会として、授業における口頭発表、対話を積極的に活用してもらいたいと思います。

備考欄

- ・2022年(令和4年)4月以降、『幼稚園専修免許状』、『小学校教諭専修免許状』に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目です。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		教育内容・教材特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	佐々木 英明						

授業の位置づけ

遊びを中心とする幼児期の学びと教科学習に重きを置く学童期の学びに一貫性を確保し、幼小の連続性と連携を構築することは、今日の重要な教育課題となっている。この課題に応えるために、本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別演習、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。

授業の概要

教育内容・教材特論において得た知見を土台として、本演習では、より具体的、実践的な研究を展開する。教育内容・教材の開発においては、今日、教育内容をいかに具体化するかの道筋と特定の素材がいかなる教育内容にふさわしいかを見出す道筋、あるいはそれらを総合した道筋などの多様な方法が提案されているが、これらの先行研究と事例に学び、受講者にはいくつかの課題について、具体的教材の作成を課す。受講生自身の経験を通した課題意識を最大限に生かし、課題についての遂行過程及び成果をもとに、教育内容・教材研究に関する意欲を喚起し、力量を養うものとする。

到達目標

1.教育内容教材論の理論的な理解を応用し、教材の吟味・批判ができる力量を形成することができる。2.すでにある教材について改良を加え、新たな教材を開発する意欲・力量を形成することができる。3.幼小を貫くカリキュラムの構築に向けて、受講生自身の経験を通した課題意識を生かした見通しのもてる力量を形成することができる。

授業の方法

配布印刷物(課題など)を用いて演習形式ですすめる。
 次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

ICT活用

特になし。

実務経験のある教員の教育内容

札幌市立小学校に22年間勤務し、学級担任、教科専科(社会・理科)、研究部長、初任者指導教諭、教務主任、主幹教諭を歴任し、小学校全科の学習指導をはじめとする実践経験を有する。教育実践をもとにした共著・論文も執筆し、平成30年には第33回東書教育書において優秀賞を受ける。勤務してきた学校では、小中一貫した教育の推進や幼保小連携の実務担当者として、小学校と中学校や幼稚園・保育園との学びの接続について、推進役を担ってきた。以上の経験をもとに、実践面、理論面の双方から、特に子どもの具体的な姿とそれに応じた実践方法について認識を深めるよう学生を支援する。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業において、課題を返却し、フィードバック、確認を行い、理解度を高める。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	本演習が、教育内容・教材特論での研究成果をもとに、これを具体的な教材作成に結実させるための力量を養う目的を持つことを説明する。	シラバスを十分に確認しておくこと。(25分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	教材作成には、多様なアプローチがあり得ること、また必要であることを、特論の成果をまとめる形で捉え(例えば、内容から教材へ(基数の本質→タイル)、教材から内容へ(すぐれた絵本→多様な人間像の提示)、以後の作業の指針として活用する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	教材から内容への一つの試みとして、モンテッソーリ教具をとりあげる。この教材が、いかなる思考操作を求めているかを受講生相互の討論を通して検討し、改良を加えることによって、どのような教育内容に資するかを探究する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	絵本を、そこに描かれる人間関係(つむがれる関係、こわれる関係)、人間像の(強さの中の弱さ、弱さの中の強さ)、境遇、運命等多様な観点(観点の発見を含めて)から分類・整理し、一まとまりの教材群(教育内容)を作成する課題を探す。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	作成したリストに基づき、受講生間において、交流・討論をし、絵本の教材性と取り扱いについて探求する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	ことばに関するしりとり・回文などの「遊び」について、日本語の拍、音節、アクセント等に関する基本的な理解をベースにして、ルール作りなどの改善・開発をもとに文字学習の基礎となるような教材・遊びづくりに取り組む。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	入門期の文字指導について、教科書やさまざまなテキストについて、吟味検討し、適切なあり方について研究する。幼小のカリキュラムについても望ましいあり方を構想する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第8回	第6講と第7講の課題について、レポートを交流し、幼小のカリキュラムの連続性について、一定の知見を得るよう探求する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第9回	量について、保存概念の獲得の状況などを考慮しながら、長いー短い、速いー遅いなどの言葉と体感を結びつける教材の考案を課す。この際モンテッソーリ教具の量概念形成への改善を試みる。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第10回	研究の成果を交流し、未測の量の段階での指導方法と意義について、受講生間で討論をし、研究を深める。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第11回	入門期の数の指導について、教科書教材を批判的に検討する。あわせて、この期の数指導についての種々のプランや提言について比較検討し、その妥当性を明らかにする。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第12回	加法は、具体物の提示ないし図示は、併置により可能であるが、減法は求残の提示、図示が極めて難しい。これを、本演習の最後の課題として課す。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第13回	課題について、創案した教材を交流し、それによる指導の可能性、方法等について研究する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第14回	幼児教育における動画使用の可能性と意義について、各領域との関連を考慮しながら、受講生間で討論をし、考察する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	渡された資料や課題を復習し、十分に再確認すること。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第15回	まとめとして、本演習で得たものについて、レポートを作成し、討論する。	事前準備(レジュメ作成)を行うこと。(60分)	すべての返却された課題や資料などに必ず目を通し、復習を行うこと。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題レポート(70%)及び討論内容(30%)
その他	0	なし。
教科書		
講義資料はその都度、レジュメを事前に配布する。		
参考文献		

- ①新・基本保育シリーズ第13巻「教育・保育カリキュラム論」第2講 日本におけるカリキュラムの基礎論
 ②幼稚園カリキュラムの振子性格―新幼稚園要領の分析を中心に― 子どもロジー第14巻
 ③幼保小連携論 日本保育学会第66回大会発表要旨集 等 この他、適宜案内する

履修条件・留意事項等

教育内容・教材特論も履修すること。

備考欄

2022(令和4年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」、「小学校教諭専修免許状」に関する教職課程の科目でもあり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目である。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		教育方法実践特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	渡邊 堯宏						

授業の位置づけ

本研究科の教育課程に、幼児教育と学校教育の両面に通底する科目群を適切に配置する。具体的には、教育課程・方法特論、教育課程・方法特別演習、こども発達特論、こども発達特別研究、教育内容・教材特論、教育内容・教材特別演習、教育方法実践特論、教育方法実践特別演習の8科目が設定されている。

授業の概要

幼児教育実践についての教育実践方法論の成果をもとに、本演習では、より具体的に実践現場における課題を抽出し、その性格・特徴を明らかにするとともに、解決に向けていかなる方策があり得るかを研究する。教育実践は、実践を展開するうえでの諸環境の調整、組織者のリーダーシップの発揮、実践者相互の関係性の構築、保護者・地域社会との連携等を研究と事例を検討し、諸課題の解決もこうした実践の全体像に位置づけられて可能となることを明らかにする。ここでは、受講生が演習へ積極的に参加できる環境を提供し、大学院生が受講生相互の経験を通じた経験知を提示しあうことを含めて、重層化した理解を深める演習を展開する。

到達目標

- 1 共同で研究課題に取り組み、幼児教育実践について、的確に批判、分析し、その特徴をつかみとることができる。
- 2 幼児教育実践の全体像を理解し、個々の実践の意義を評価できる。
- 3 幼児教育実践に、強い確信と意欲をもって望むことができる。
- 4 お互いに「受講生自身の経験を通じた課題」をベースにした情報交換をしながら、研究課題を深めていく方法について習得する。

授業の方法

実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開する。

ICT活用

ICTを用いた調査方法についても検討する。

実務経験のある教員の教育内容

保育園、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務、管理職業務の経験をもとに、保育実践と保育研究の指導を行う。(渡邊)

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図る。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	本講義が教育方法実践特論を土台とした,より実践的な教育実践へのアプローチであること,教育実践の特徴を見出す観察力を養い,それぞれの実践の力量の向上につなげようとするものであることを理解する。 次回にむけ,これまでの知見をもとに幼稚園・保育所への調査票の作成に着手することを確認し,手順及び分担等を受講生同士で話し合い,最も効果的に取り組みやすい研究体制を提案する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			
第2回	教育実践の特徴を把握するための調査票を作成する。各受講生があらかじめ準備した調査内容をつき合わせ、討論を通して、最も、回答者に負担がかからず、かつ、資料的価値の高い情報を収集できるように工夫する。1	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			
第3回	教育実践の特徴を把握するための調査票を作成する。各受講生があらかじめ準備した調査内容をつき合わせ、討論を通して、最も、回答者に負担がかからず、かつ、資料的価値の高い情報を収集できるように工夫する。2	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			

第4回	回調査票の成案を作成し、各自、分担し合いながら、各幼稚園・保育所に発送する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			
第5回	回収を待つ間、日本において定評のある実践及び外国で注目されている実践(例えば、プロジェクトアプローチ)などの先行事例を研究し、視野を豊かにする。回収したアンケートの集計を行う。いかに分析するかを担当者からの課題に基づいて、基礎票の読み取りに着手する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			
第6回	回収したアンケートの集計を行う。いかに分析するかを担当者からの課題に基づいて、基礎票の読み取りに着手する。アンケートの集計に分析を加え、討論し、レポートにまとめる。この作業を通じて、観察対象園・所を定める。(アンケートでは、あらかじめ承諾を問うておく。)	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			

第7回	特徴ある活動場面(遊び、作業行事等)の視聴と担当者(本演習に参加)へのインタビュー及び討論(A園)を行う。(インタビューの進め方に当たっては、あらかじめ、受講生の話し合いを通した枠組みに基づいて、半構造化された面接シートを用いて行う。なお、ビデオ収録は教員が行う)。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			
第8回	特徴ある活動場面(遊び、作業行事等)のビデオ収録・視聴と担当者(本演習に参加)へのインタビュー及び討論(B園)	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			
第9回	特徴ある活動場面(遊び、作業行事等)のビデオ収録・視聴と担当者(本演習に参加)へのインタビュー及び討論(C園)	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			

第10回	3園のそれぞれの実践から、何を学び得るかの討論をおよび観察レポートの作成を通して、それぞれの園の子どもの発達支援の特徴を浮き彫りにする。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			
第11回	A園責任者へのインタビュー(本演習に参加)、教育課程作成のプロセス、打ち出している園の特徴、教育実践の特徴、家庭・地域社会との連携、インクルーシブな視点の有無、リーダーシップ・同僚性への腐心等について、アンケートの内容をより具体的に調査する。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			
第12回	B園の責任者へのインタビューにおいても、同様の取り組みを進める。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			

第13回	C園の責任者へのインタビューにおいても、同様の取り組みを進める。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			
第14回	A、B、C園のインタビューから何を学び得るか討論及びレポートの作成を通して明らかにする。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			
第15回	本演習で研究した成果の発表と講評（講義担当者及びその他の指導教員も参加し、討論に参加する）。	調査票の作成・半構造化面接の質問項目の準備・調査票の集計を分担し合いながら事前準備をする。(20分)	事後学習として調査研究の振り返りと報告書の作成・学会発表の準備を進める。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	調査票の作成及び半構造化面接による資料の収集の内容により評価する。
その他	0	
教科書		
特に定めない		
参考文献		

都度指定する。

履修条件・留意事項等

共同での教育・研究活動が中心になるので受講生同士で十分連絡を取りながら、本演習活動に参加すること。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		発達障害実践特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	後藤 広太郎						

授業の位置づけ

インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となってきた。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目を配置している。具体的には、インクルーシブな教育・保育特論、特別支援 教育方法特論、気になる子ども発達支援特別演習、特別支援教育コーディネーター特論、発達障害実践特別演習、こども発達支援・臨床相談特論、こども発達支援・臨床相談特別演習の7科目が設定されている。

授業の概要

発達障害に含まれる主な障害として、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、高機能自閉症、アスペルガー障害があげられる。ここでは、「障害という問題を構成している諸要因の関連」の枠組みから、発達障害を抱える人々の課題と解決の糸口を捉えていく。さらに、この演習では、認知神経科学的研究、特に、脳血流分野の研究について、機器操作の実習を通して学習し、討論を通して、発達障害研究の一つの切り口としての理解を深める。

到達目標

次の3点を授業の到達目標にする。

(1) 学習障害, 注意欠陥多動性障害 (ADHD), 高機能自閉症, アスペルガー障害 等の発達障害の課題を抱える 人たちの行動特性を理解できる。

(2) 発達障害の課題を抱える子ども達の行動特性が社会的場のなかで、どのような形で、他者とのかかわりのひずみを生じさせているかを関係論的観点から捉え、支援の手がかりを発見する。

(3) 脳血流の測定機器の活用の仕方を学習し、発達障害の課題を抱える児童・生徒に関する研究について理解を深める。

授業の方法

実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開する。

ICT活用

なし。

実務経験のある教員の教育内容

なし。

課題に対するフィードバックの方法

提出された授業の振り返りのレポート及びクリッカーによる分析結果にコメントを書き添えてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	発達と発達障害について学習する。ここでは、発達論的、関係論的観点から発達と発達障害の概念を明らかにする中で、発達障害ということばの持つ意味について学習をし、発達障害についての基礎的理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第2回	小学校・中学校・高等学校の通常の学級に在籍する発達障害の抱える問題と、一人一人の発達に応じた個別指導、授業における教材教具の工夫などの実態把握をし、一人一人の教育的ニーズにきめ細かく応えていく、効果的な発達支援手法についての情報を持ち寄り、受講生全員で情報を交換し合いながら、発達障害の課題を抱える子ども達の今日的課題を明らかにする。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第3回	発達障害とはどのような障害なのかについてその輪郭を捉える。ここでは、配布された参考資料を活用して受講生全員で討論をし、お互いの情報を提供しあいながら、学習障害(LD)、注意欠陥/多動性障害(ADHD)、高機能自閉症等、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要としている児童生徒についての理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			

第4回	学習障害(LD)とはどのような障害なのかを学習する。学習障害の子ども達は、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、または推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な課題に直面していることを理解する。受講生が相互に教育情報を出し合いながら、受講生間の情報を積極的に吸収しあい、支援の在り方についての手がかりを探る。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第5回	「へき地保育所におけるインクルーシブな保育環境に関する研究. 北海道文教大学研究紀要 第40号」の論文を読み、「保育場面で気になる子ども」を取り巻く保育環境を明らかにし、受講生相互の討論を通して、保育場面で気になる子どもの行動特徴を明らかにし、インクルーシブな保育環境を構築するための手がかりを明らかにする。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第6回	「障害または障害の疑いを持つ幼児の父母の育児感情. コミュニケーション障害研究, 第8号」の論文を読み、討論を通して、就学前の親の育児効力感と育児関連ストレスについての関係並びに父親と母親とで感じ方の差、夫婦間での関係について学習を深める。このことを通して、発達面に課題をもつ子どもに対する養育の場について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			

第7回	「空間把握における学習障害児の上肢運動の適応能力に関する基礎研究. 電子情報通信学会『信学技法』, 第 23 号」を読み、受講生全員による討論を通して、認知神経科学的側面から学習障害児の特性について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第8回	「空間的に視覚と固有受容感覚を矛盾させた状態での到達運動における前頭前野の活動についてー近赤外線スペクトロスコピーによる検討ー. 日本脈管学, 第48号, 第4巻」の論文をベースにして、実際に、認知神経科学的側面から情報を収集する実験的方法について学習し、討論を通して、発達障害児の抱える特性についての理解を深める。ここでは、実際に、機器による測定の方の学習も行う。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第9回	指定文献「実践への保育学. 同文書院」のなかから、受講生のそれぞれが特に、発達障害児に対する教育実践において役立つと思われる「興味深い教育情報」を抽出し、それらを討論素材として提示し、討論を通して、保育現場における発達障害児への支援についての理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			

第10回	3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする「自閉症」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行う手がかりとはなにか」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第11回	基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を示す「学習障害(LD)」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援」とは何か」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第12回	年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び／又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業に支障をきたす「注意欠陥多動性障害(ADHD)」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行うための手がかり」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			

第13回	3歳位までに現れ、①他人との社会的関係の形成の困難さ、②言葉の発達の遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わない「高機能自閉症」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行うための手がかり」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第14回	知的発達の遅れを伴わず、自閉症の特徴のうち言葉の発達の遅れを伴わない「アスペルガー症候群」の事例について、受講生全員が重要と思われる資料を収集し、それらを素材にして討論を深め、「適切な指導及び必要な支援を行うための手がかり」について理解を深める。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
第15回	演習全体を振り返り、この演習を通して学習したことについて受講生それぞれが、自分の意見または感想を述べ合い、それらを素材にして、学習の成果についてレポートを作成する。	事前にシラバスを読んで講義の概要を把握すること(90分)	授業の振り返りをし、他の受講生の発言を整理しておく。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	この演習での積極的な参加の状況、及びレポートにより総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし。		
参考文献		

なし。
履修条件・留意事項等
授業と並行させて認知神経科学的側面から情報収集する実験的方法の実際について、体験を通して学習する。
備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		こども発達支援・臨床相談特別演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	山本 愛子						

授業の位置づけ

インクルージョンに関する理解の高まりのなかで、幼児期・学童期の教育においても、特別なニーズを持つ子どもへの対応とインクルーシブな保育と教育の場の構築が喫緊の課題となっています。この課題に応えるために、教育課程のなかにインクルーシブな保育と教育を視野に入れた特別支援教育科目(8科目)が配置されており、本科目はそのなかの一つです。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「教育・保育において、多様なニーズを有することのインクルーシブな教育・支援を展開できる」に関わる科目として位置付けています。

授業の概要

発達面に課題のある子どもたちへの支援・相談について、理論学習および体験実習を通して実践的に学びます。ここでは、主として、本学の子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)をベースにして、①集団遊戯療法としての「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」によるロールプレイ体験及び支援場面の振り返りのためのビデオ記録によるクリッカー分析、②子どもを取り巻く家族関係への支援のための「FIT(Family Image Test)」、③子どもの特性を把握のための発達・心理検査の学習などを中心に、受講生の体験も交えながら学びを深めます。

到達目標

1. 子どもの発達支援・相談における理論と方法について理解し、説明することができる。
2. 集団遊戯療法に関するロールプレイ・行動観察・分析の体験学習を通して、発達支援・相談のために必要な観察力を高めることができる。
3. 子どもの保護者への支援・相談の必要性について、事例に基づいて論じることができる。

授業の方法

実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成する」ために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開します。

ICT活用

この授業では、クリッカー(反応収集提示装置)による子どもの行動分析を行います。ここでは、特に集団遊戯療法場面をクリッカーを用いて分析し、受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、遊戯療法の理論と実際に関する理解を深めます。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有しています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。また、授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていきます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の発達支援・心理臨床に関する学習の軌跡と臨床実践の紹介をします。ここでは、演習の内容や目的、進め方、受講にあたっての留意事項等についての説明を行います。	発達支援、臨床相談というキーワードについて事前に調べておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第2回	発達支援・相談における子どもの特性の理解：子どもにおける過去・現在の対人関係について、「私の対人地図」の作成を通じた支援の方法を学びます。ここでは、「私の対人地図」の作成によって、これまでの対人関係・現在の対人関係をふりかえり、マップとして視覚化する体験を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第3回	発達支援における遊戯療法に関する理論(1):遊戯療法に関する文献の講読を通して、発達支援・相談のあり方について学びます。また、関連する映像資料を視聴することを通し、遊戯療法についての具体的・実践的なイメージを持つことを目指します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	発達支援における遊戯療法に関する理論(2):集団遊戯療法に関する文献の講読を通して、対人・対物関係場面における子どもに対する環境の側のかかわりについて、討論を交えながら理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめる。(25分)
担当教員			
第5回	発達支援・相談における遊戯療法の実際(1):集団遊戯療法の実践について映像を視聴し、討論を通して共通理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめる。(25分)
担当教員			
第6回	発達支援・相談における遊戯療法の実際(2):発達支援に関わる相談の事例を想定して、集団遊戯療法のロールプレイ実習を行います。ここでは、子ども・指導者・観察記録の役割担当によって集団遊戯療法の実践的な学びを深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめる。(25分)
担当教員			

第7回	発達支援・相談における遊戯療法の実践(3):事例の設定による集団遊戯療法のロールプレイ場面について、子どもチームおよび指導者チームの動きに着目し、行動観察・分析を行います。ここでは、クリッカーを用いて分析を進めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめる。(25分)
担当教員			
第8回	家族関係に関わる支援の理論と実践(1):日本における家族療法の歴史・背景について学び、子どもおよびその家族の構成員が抱く「家族イメージ」に関わる理論について学びます。特に、小学生とその家族による家族イメージについてFIT(Family Image Test)の類型を通して学習します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめる。(25分)
担当教員			
第9回	家族関係に関わる支援の理論と実践(2):家族療法についてロールプレイを通して理解を深めます。ここでは、子どもの家族関係に関わる支援として、想定した相談事例に基づいた家族合同面接のロールプレイを行い、家族療法について実践的に学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめる。(25分)
担当教員			

第10回	家族関係に関わる支援の理論と実際(3):家族療法における心理学的アセスメントの体験を通してこの療法の有用性について理解を深めます。ここでは、家族療法におけるアセスメント法として、家族イメージ法(FIT:Family Image Test)に取り組み、結果の分析を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめる。(25分)
担当教員			
第11回	発達支援に関わる心理アセスメントの理論と実際(1):ブロンフェンブレンナーによる生態学的システム理論について学び、社会的文脈から子どもの発達を捉える視点について討論を通して理解を深めます。また、子どもを取り巻く環境における社会資源・子ども自身のもつ内的なリソースについて、臨床心理学的な視点から検討します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめる。(25分)
担当教員			
第12回	発達支援に関わる心理アセスメントの理論と実際(2):発達支援に関わる知能検査について学びます。ここでは、主として、田中ビネー式知能検査の理論的枠組みについて学びます。このことを通して、発達支援における知能検査の理論的な位置づけについて理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめる。(25分)
担当教員			

第13回	発達支援における心理アセスメントの理論と実際(3):発達支援に関わる心理検査について学びます。ここでは、主として、投影法における文章完成法(SCT)・P-Fスタディの理論について学び、子どものパーソナリティ特性について理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	相談事例を通じた発達支援・相談の理解:これまでに演習を通して学んできたことを総合して、母親からの相談を想定した相談事例について見立てから具体的な相談・支援の進め方まで、受講生自身が検討し、課題解決・発展のための手立てを分析していきます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認:ここでは、この演習で学んだことについて、全体のまとめを行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの発達支援・相談における理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習場面への参加態度、グループでの活動状況、レポート課題提出によって評価します。
その他	25	ロールプレイ実習での体験をテーマとする「実習体験報告書」(所定の書式)によって評価します。
教科書		
教科書の指定は行いません。必要な資料はその都度配布します。		
参考文献		

臨床発達支援の専門性 西本絹子・藤崎真知代編著 臨床発達心理士認定運営機構監修 ミネルヴァ書房

履修条件・留意事項等

発達支援・カウンセリングのロールプレイ、テーマに基づく討論、グループ体験学習への積極的な参加が求められます。

備考欄

2023年(令和5年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」「小学校教諭専修免許状」に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目」区分における選択必修科目です。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達支援教育関連演習科目					
科目名		気になる子どもの発達支援特別演習				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	木谷 岐子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「家庭や地域社会の変化に伴うこども発達の実態やニーズの多様化に対応して、適切な支援、指導、教育の実践を展開できる。(知識・技能)」、「教育、保育において、多様なニーズを有するこどものインクルーシブな教育・支援を展開できる。(知識・技能)」、「こどもの成長・発達にむけた的確な教育・支援を実現するための教育研究を推進することができる(思考・判断・表現)」と関係する科目である。

授業の概要

実践的教育・研究の指導を通じて、今日の教育・保育の現場において求められる多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成する。そのために、大学院生自身の経験を通した課題を提示し、活発な討議を通して授業を展開する。

到達目標

1. こどもの多様なニーズを理解し、説明することができる。
2. 学んだ内容と、大学院生自身の経験を関連づけることができる。
3. いかにインクルーシブな教育・保育への取り組みを進めていくかについて、具体的に思考し、論ずることができる。

授業の方法

授業は演習方式で実施し、受講者全員で授業を作り上げる参加型の方式を採用する。そこでは、各自のこれまでの経験を全体で共有できるような場を設定する。

ICT活用

パソコンを用いて、発表や討論の資料を作成する。Google Suite for Education 等のプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

臨床心理士/公認心理師として、発達相談やスクールカウンセラー業務に従事した実務経験を活かし、多様なニーズを持つこどもの発達支援についての演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業におけるディスカッション、及びレポートへのコメントによってフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	・オリエンテーション 多様なニーズを有する幼児・児童に関する社会的動向の概要を理解する。また、これまで自身の経験を振り返る。	多様なニーズを有するこどもについて思い浮かぶ事柄を書き出す。(90分)	授業のなかで共同で出し合った、多様なニーズを有するこどもについて、各自整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第2回	・多様なニーズを有する幼児について① 多様なニーズを有する幼児の発達支援に関する動向を理解する。	事前に配布した資料に目を通しておく。(90分)	多様なニーズを有する幼児への支援の動向について、各自整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第3回	・多様なニーズを有する幼児について② 多様なニーズを有する幼児の発達支援の様子を映像資料等を通して把握し、理解を深める。	多様なニーズを有する幼児に対する疑問点や関心がある事柄について書き出しておく。(90分)	映像資料から得た学びをまとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第4回	・多様なニーズを有する児童について① 多様なニーズを有する児童の発達支援に関する動向を理解する。	多様なニーズを有する児童について各自の経験をまとめておく。(90分)	配布されたレジュメを読み返して、各自整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第5回	・多様なニーズを有する児童について② 多様なニーズを有する児童の発達支援の様子を映像資料等を通して把握し、理解を深める。	多様なニーズを有する児童に対する疑問点や関心がある事柄について書き出しておく。(90分)	映像資料から得た学びをまとめておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第6回	・多様なニーズを有する幼児・児童に関する研究動向① 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援についてまとめられた文献を紹介する。文献の内容を基に、各自のこれまでの経験と照らし合わせながらディスカッションする。	事前に演習に必要な資料を配布するので、目を通しておく。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第7回	・多様なニーズを有する幼児・児童に関する研究動向② 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に関し、各自、関心を絞って、論文を収集し、レジュメを作成する。	各自テーマについての関心事を整理しておく。(90分)	収集した資料を読み、要点を絞ったレジュメを完成させる。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第8回	・多様なニーズを有する幼児・児童に関する研究動向③ 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に関し、各自、関心を絞って、論文を収集し、レジュメを作成する。	各自作成したレジュメを点検する(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第9回	・エピソード記述法から実践を捉える① エピソード記述法を理解し、多様なニーズを有する幼児・児童との生きた関わりを捉える方法論を理解する。	エピソード記述法について調べておく。(90分)	授業で配布されたレジュメを元に振り返りを行う。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第10回	・エピソード記述法から実践を捉える② エピソード記述法によって書かれた文献を通し、方法論の理解を深める。	各自の日常の中でのエピソードを収集する。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第11回	・エピソード記述法から実践を捉える③ エピソード記述法を用いて、自身と他者の生きた関わりの記述を書き起こす演習を行う。	各自の日常の中でのエピソードを収集する。(90分)	授業の振り返りをし、必要な事項について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第12回	・エピソード記述法から実践を捉える④ 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援の実践場面について、各自エピソード記述法を用いて記述する。	各自の実践場面からエピソードを収集する。(90分)	授業の振り返りをし、必要な事項について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		

第13回	・エピソード記述法から実践を捉える⑤ 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援の実践場面について、各自エピソード記述法を用いて記述したものに考察を加え、他者も了解できる形に洗練させる。	各自の実践場面から切り取ったエピソードについて考察を深める。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第14回	・エピソード記述から実践を捉える⑥ 多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援の実践場面について、エピソード記述を用いて記述した各自の実践を紹介し合う。	考察を加えたエピソード記述を点検する。(90分)	授業の振り返りをし、必要な事項について整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
第15回	・まとめ 15回の授業を通して得られた気づきや、考えについてレポートにまとめ、それを元にディスカッションする。	全15回の授業についての振り返りを行う。(90分)	ディスカッションから得られた気づきを各自、整理しておく。(90分)
担当教員	木谷 岐子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	演習での発表及び討論への参加の積極性によって評価する(50%)。分析資料の作成(レポート)の取組(50%)
その他	0	なし。
教科書		
演習に必要な資料はその都度配付する。		
参考文献		

インクルーシブ教育ってどんな教育？ 青山新吾編 学事出版
エピソード記述入門－実践と質的研究のために 鯨岡峻 東京大学出版会

履修条件・留意事項等

各自の研究を構築していくための機会として位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達学実践演習科目					
科目名		発達支援分析評価法実践演習				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	山本 愛子						
授業の位置づけ							
本研究科は「高度な学問的成果と実践を往還しながら創意ある実践を展開できる力量を身につけた、将来の中堅のリーダーとなる人材の養成」を意図していることから、教育課程に「発達支援分析評価法実践演習」の科目が必修科目として設定されています。ディプロマポリシーでは、主に「知識・技能」の領域における「家庭や地域社会の変化に伴うこどもの発達の実態やニーズの多様化に対応して、適切な支援、指導、教育の実践を展開できる」に関わる科目として位置付けています。							

1. 本学子育て教育地域支援センターにおける子育て・発達支援の理論と実際を理解し、実際に支援活動に参加することができる。
2. ロールプレイ実習体験を通して、発達支援における臨床実践の方法を習得し、実際の支援活動に生かすための手掛かりを得ることができる。
3. 発達支援における臨床実践の分析・評価の方法を習得し、子ども理解の在り方について討議することができる。

授業の方法

実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成する」ために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開します。

ICT活用

この授業では、クリッカー（反応収集提示装置）による子どもの行動分析を行います。ここでは、発達支援にかかわって、特に集団遊戯療法場面に焦点を当て、クリッカーを用いた分析を体験します。受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、集団遊戯療法の理論と実際に関する理解を深めます。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者は、公認心理師・臨床心理士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関での臨床経験を有しています。また、本学子育て教育地域支援センターにおいて臨床実践を続けています。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行います。

課題に対するフィードバックの方法

クリッカーを活用した行動分析に関しては、分析結果をフィードバックします。分析結果に基づいたディスカッションやレポート作成を行うことにより、さらに学びを深めます。また、授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていきます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	オリエンテーションおよび授業担当者の教育相談に関する学習の軌跡と教育臨床実践の紹介をします。また、授業の内容や目的、進め方、留意すること等についての説明を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第2回	受講生相互の自己紹介を通して、この演習を円滑に進めるためのベースを構築します。また、ここでは、受講生がペアになり、相互スクイグルに取り組みます。これらの取組を通して、発達支援に携わる者としての自己理解の重要性について理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第3回	発達支援における実践のフィールドに関する理解：ここでは、この演習のベースとなる本学子育て教育地域支援センターの取組について、センター設立の経緯と基本的枠組み、センターによる子育て・発達支援の実践と研究の実際を中心に学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	発達支援と臨床心理学の世界：発達支援と臨床心理学の関係性、歴史、背景について学びます。ここでは、臨床心理学の成り立ちについて学び、臨床心理学について理解を深めます。また、発達支援に関わる専門職および専門資格、職務内容、職域についても学習します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第5回	発達支援と子ども理解(1)：発達支援において、子どもの状態像、性格特性、心理・発達面の状況を多面的に捉えるための子ども理解の仕方について学びます。ここでは、ブロンフェン布伦ナーによって提唱された子どもの発達における生態学的システム理論の概念的枠組みを中心に学び、社会的文脈から子どもを理解するための視点の当て方について学習します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	発達支援と子ども理解(2)：発達支援における子ども理解の手立てとして風景構成法の理論と実際について学びます。ここでは、受講生がペアになり、子ども役とカウンセラー役に分かれて、実際に風景構成法の実施について、ロールプレイを通して学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	子どもの行動観察と発達支援：発達支援における行動観察の方法について学びます。ここでは、発達支援における行動観察の意義とその種類・方法について理解を深めます。また、保育臨床のフィールドにおける子どもの遊びの場面の観察・方法について学びます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	子どもの発達を支える専門職における「自己の内面に関する理解・分析」：子どもの発達支援・教育に携わる立場として重要となるセルフアウェアネスについて学びます。ここでは、特に、自己の内面における価値の明確化のために、「あれか・これかの選択」「私のしたい20のことがら」の体験学習に取り組みます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	発達支援における遊戯療法の実践と分析(1)：遊戯療法に関する文献の講読を通して、発達支援・相談のあり方について学びます。ここでは、集団遊戯療法として開発された「関係力育成プログラム」に関する理論的枠組みを学び、それに基づく発達支援について理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	発達支援における遊戯療法の実践と分析(2): プレイルームにおいて、関係力育成プログラムに基づいたロールプレイ実習を行います。ここでは、集団遊戯療法として開発された関係力育成プログラムの基礎理論に基づいて、ロールプレイを体験します。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	発達支援における遊戯療法の実践と分析(3): 関係力育成プログラムによるロールプレイ実習場面の映像を視聴し、クリッカーを用いて分析を行います。ここでは、反応収集提示装置「PF-NOTE」によるロールプレイ場面の評価・分析を実施し、その可視化グラフの波形に着目して全体で振り返りを行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	子育て・発達支援における集団遊戯療法の臨床実践と分析(1): 関係力育成プログラムのロールプレイ実習を踏まえて、実際に、子どもたちを対象とした臨床実践の計画を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			

第13回	子育て・発達支援における集団遊戯療法の臨床実践と分析(2): 子育て教育地域支援センターにおいて、関係力育成プログラムに基づく臨床実習を行います。ここでは、支援の実際について、体験を通して理解を深めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	子育て・発達支援における集団遊戯療法の臨床実践と分析(3): 臨床実践場面の映像を視聴し、クリッカーを用いて分析を行います。ここでは、事前に設定した観察の観点に基づき、クリッカーを用いて臨床場面の分析を進めます。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	演習の振り返りと学習の成果の確認:ここでは、この演習で学んだことについて、全体のまとめを行います。「発達支援における分析・評価」に焦点をあてて考察を行い、意見交換を行います。	事前に授業計画をよく読み、授業に必要と思われる事項についてノートに整理しておく。(20分)	子どもの行動観察・分析法の理論と方法について関連文献及び関連情報について、その都度、まとめておく。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習場面への参加態度、グループでの活動状況、レポート課題提出によって評価します。
その他	25	遊戯療法に関するロールプレイ体験に基づいた実習体験報告書(所定の書式)によって評価します。
教科書		
教科書は使用しません。必要な資料はその都度配布します。		
参考文献		

高度情報化時代の「学び」と教育 渡部信一編著 東北大学出版会
社会・情動発達とその支援 近藤清美・尾崎康子編著 臨床発達心理士認定運営機構監修 ミネルヴァ書房

履修条件・留意事項等

発達支援に関わるロールプレイ、臨床体験、グループによる体験学習の取組への積極的な参加が求められます。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達学実践演習科目					
科目名		こども発達学実践演習 I				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	山本 愛子、西野 美穂						
授業の位置づけ							
この科目は、実践研究のための研究資料の作成や院生相互の「行動観察」の力量形成にとって意味を持つと考えられる。本研究科では、院生各自が関心を持つ実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」が教育課程に組み込まれている。これらの実践演習の担当者には実践研究に精通した教員が配置される。なお、ディプロマポリシーでは、主に「関心・意欲・態度」の領域における「理論と実践の往還の中からの学びにより、こどもの成長・発達を実現するための創意ある実践を展開できる中堅のリーダーとしての自覚がある」に関わる科目として位置付いている。							
授業の概要							
本学の子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)をベースにして進められる。ここでは、主として、就学前の地域の子どもと保護者に対する発達支援の取組に陪席しながら、①発達支援対象の子どもと保護者の実際の支援を進める上で必要とされる情報の収集(子どもの発達の状況・特性等の情報を含む)と支援計画の立案の検討作業への参画、②関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)をベースにした発達支援活動(ペンギン・ミュージックプログラムを含む)への参加、③ケースレポートの作成を通して「場を通した支援のあり方」について実践的に学習する。これらの学習の成果は、次に続く修士論文の作成のための基礎資料として有効に活用できるようにしていく。							
到達目標							

1. 関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)の理論について理解できる。
2. 関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)を用いた指導実践に参加し、プログラムに沿って、未就学の子ども(特別なニーズをもつ子どもを含む)と保護者に対する関わりをとることができる。
3. ペンギン・ミュージックプログラムについて、子どもを対象とした絵本の読み聞かせに対して音楽を導入する実践の方法を理解できる。

授業の方法

実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、実践演習のためのフィールドでの経験を全員で話し合う場を設定し、各自の実践経験を共有する形で学習を進めていく。

ICT活用

この授業では、クリッカー(反応収集提示装置)を用いた行動分析を行う。ここでは、発達支援にかかわって、特に集団遊戯療法場面・音楽を導入した絵本の読み聞かせ場面に焦点を当て、クリッカーを用いた分析を体験する。受講者全員で分析結果のふりかえりを行うことを通して、幼児・児童の発達支援に関する理解を深める。

実務経験のある教員の教育内容

授業担当者(山本)は、公認心理師・音楽療法士等の資格を持ち、これまでに精神科病院・教育相談機関等での臨床経験を有している。これらの実務経験及び研究実績を生かして授業を行う。
授業担当者(西野)は、ピアノの演奏家として35年間活動し、ドイツバロック、古典派の芸術音楽のソリスト等の実務経験を有する。また、子どもたちを対象に、恵庭市教育委員会主催のピアノソロコンサートで16年間演奏し、社会貢献を続けてきた。これらの実務経験及び研究業績を生かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	発達支援のフィールドとしての子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)について、センターにおける理論的枠組み、活動内容等の基本事項を学ぶ。また、ここではゲストスピーカーとして子育て教育地域支援センターのセンター員による話題提供を得て、センターの成り立ちや設立から現在までの地域における支援活動の実際について理解を深める。(担当:山本)	事前に配布されたシラバスに目を通しておく。(20分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(25分)
担当教員	山本 愛子		
第2回	子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)で作成した「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」に関する指導マニュアルを読み、この指導法について学習する。さらに、「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」を活用した研究論文の講読を行う。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員	山本 愛子		
第3回	「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」を活用した研究論文を読み、その内容に関してレジュメ・パワーポイント資料を作成し、発表とディスカッションを行う。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員	山本 愛子		

第4回	「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」によるロールプレイ体験学習を行う。指導者役(チーフ役・サブ役・アシスタント役)、子ども役、保護者役、観察記録役に分かれたロールプレイ体験を通して、このプログラムの実際について学ぶ。また、ロールプレイ体験をふりかえり、それぞれの担当役の立場から考えたことについてレポートを作成する。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめる。(20分)
担当教員	山本 愛子		
第5回	「関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)」の指導に関する評価法について学習する。事前に配布された評価方法に関する研究論文及びクリッカーを活用した研究論文を読み、内容を整理・理解しておくこととする。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめる。(20分)
担当教員	山本 愛子		
第6回	クリッカー(反応収集提示装置)を用いた分析法について学ぶ。ここでは、実際の関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)に基づいた受講生たち自身のロールプレイ体験場面の映像について、クリッカーを用いて分析を行うことを通して、クリッカーを用いた分析の意義について学習する。また、ロールプレイ体験とその分析結果に基づいて「実習体験報告書」を作成する。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめる。(20分)
担当教員	山本 愛子		

第7回	子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)での関係力育成プログラム(文教ペンギンメソッド)による実際の小集団指導場面への陪席を通して、多様な特性をもつ幼児・児童(特別なニーズをもつ幼児・児童を含む)の発達支援の実践について学習する。また、指導実践記録の作成及び特定の事例についてのケースレポートを作成する。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめる。(20分)
担当教員	山本 愛子		
第8回	子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)において音楽を導入した子育て支援活動として考案・実践されている「ペンギン・ミュージックプログラム」について、導入の経緯や内容、目的、理論的背景について学ぶ。また、ここではプログラムにおける楽器演奏や歌唱の導入の在り方についても実践例に基づいて学習する。(担当:西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第9回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、特に幼児期の子どもたちを対象とした実践の方法を学ぶ。ここでは、絵本「そらめくんのベッド」(なかやみわ著)に即興音楽を導入した実践例を通して、幼児期の子どもたちの特性・発達に合わせたプログラムの構成について学習する。(担当:西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめる。(20分)
担当教員	西野 美穂		

第10回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、特に学童期の子どもたちを対象とした実践の方法を学ぶ。ここでは、絵本「雪渡り」(宮沢賢治著)にバッハのフランス組曲BWV816を導入した実践例を通して、学童期の子どもたちの特性・発達に合わせたプログラムの構成について学習する。(担当:西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第11回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、実施を想定したロールプレイ学習を行う。ここでは、指導者役と子ども役に分かれ、実際の場面を想定しながらロールプレイ体験を行うことにより、指導の実際を学習する。(担当:西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第12回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、ロールプレイ学習の組織的ふりかえりを行う。ここでは、クリッカー(反応収集提示装置)を用いて、ロールプレイ体験場면을収録した映像を分析する。指導者役と子ども役のかかわり場面について、特に指導者の動きに関する分析を行うことを通して、指導者の動きの適切性や子どもに対する応答的なかわり方について理解を深める。(担当:山本)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員	山本 愛子		

第13回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、実際のプログラムの立案を行う。ここでは、子どもの年齢や特性、発達に合わせて、題材とする絵本の選定、既存の楽曲の使用、即興音楽の導入、楽器の使用、空間構成等の具体的な計画を立て、指導計画書を作成する。(担当:西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第14回	「ペンギン・ミュージックプログラム」における音楽を導入した絵本の読み聞かせについて、実際の子どもたちを前に計画したプログラムを実践する。また、事後には指導場面について、子どもの発達特性に合った内容としての適切性、音楽の導入の適切性、空間構成の3つの観点から、全員でふりかえりを行い、実践報告書を作成する。(担当:西野)	指定文献について、読み込みをしておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員	西野 美穂		
第15回	授業全体のふりかえりを行う。発達支援のフィールドとしての子育て教育地域支援センター(文教ペンギンルーム)における「場を通した支援の在り方」について、これまでの授業をふりかえり、子育て教育地域支援センターのセンター員(ゲストスピーカー)の講評を得ながら、意見交換を行う。また、ここでの学びの成果について、最終レポートを作成する。(担当:西野)	授業全体をふりかえり、学習した内容を整理しておく。(25分)	演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りファイルにまとめておく。(20分)
担当教員	西野 美穂		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	75	演習場面への参加態度、グループでの活動状況、レポート課題の提出によって評価する。
その他	25	ロールプレイ実習での体験をテーマとする「実習体験報告書」(所定の書式)によって評価する。
教科書		
テキストは使用しない。必要な資料は都度配布する。		
参考文献		

渡部信一監修(2011)高度情報化時代の学びと教育. 東北大学出版会
 クリストファー・スモール(野澤豊一・西島千尋訳)(2011)ミュージッキング-音楽は行為である-. 水声社

履修条件・留意事項等

各自の研究を構築していくための機会として位置づけて授業に臨んでください。また、発達支援に関わるロールプレイ、臨床体験、討論等への積極的な参加が求められるので留意してください。

備考欄

2023年(令和5年)4月以降、「幼稚園教諭専修免許状」「小学校教諭専修免許状」に関する教育課程の科目であり、「大学が独自に設定する科目」の「教育実践に関する科目」区分における選択必修科目です。

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達学実践演習科目					
科目名		こども発達学実践演習Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	渡邊 堯宏						

授業の位置づけ

「こども発達学実践演習Ⅱ」は幼稚園教育における教育成果の形成を考究するための学問であり、こども発達学実践演習の科目である。

授業の概要

- ①本演習は附属幼稚園及び協力幼稚園をベースにして保育・教育の実践を学ぶ。
- ②保育環境と保育実践の検討と実践
- ③保育学に基づいた先行研究からの検討と考察

到達目標

- ①学生は幼児教育の実践的臨牀的観点から保育・教育の場面を考察することができるようになる。
 ②学生はこどもの発達の知見が保育・教育実践に活用できるようになる
 ③学生は保育学に基づいた先行研究からの検討と考察方法を学び実践できるようになる。

授業の方法

実践的教育・研究の指導を通じて、幼児期・学童期の教育・保育の現場に求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、社会人を含めた大学院生自身の経験をととした課題を分析し、活発な討議の方法を中核にすえて授業を展開して実践的な講義方法とする。

ICT活用

Webアプリを用いた双方向授業を取り入れる。パソコンや映像機器を利用してデータ収集や編集、発表の準備を行う。

実務経験のある教員の教育内容

保育園、幼稚園、学童保育等の保育現場で担任業務、管理職業務の経験をもとに、保育者としての必要なことを伝え、保育の重要性と楽しさを指導する。(渡邊)

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論のなかでの授業者からのコメント、及び複数回のレポートについてのコメントによってフィードバックを図っていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	幼稚園教育要領に基づく5領域のねらい及び内容と発達を理解して考察する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			
第2回	保育・教育の実践における評価法を学ぶ。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			
第3回	保育・教育の実践における評価法の実践を考究する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			

第4回	保育・教育の指導計画の立案の方法を再考する。	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			
第5回	気になる保育実践の先行研究の検討①	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			
第6回	気になる保育実践の先行研究の検討②	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			

第7回	気になる保育実践の先行研究の検討③	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			
第8回	気になる保育実践の考察①	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			
第9回	気になる保育実践の考察②	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			

第10回	気になる保育実践の考察③	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			
第11回	質の高い保育実践とは何かを先行研究より検討する①	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(20分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	質の高い保育実践とは何かを先行研究より検討する②	(準備学習)指定文献について、読み込みをしておく。(40分)	(事後学習)演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			

第13回	質の高い保育実践とは何かを先行研究より検討する③	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。(40分)	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			
第14回	これまでの学びから質の高い保育活動について検討する	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			
第15回	これまでの学びから質の高い保育活動について考察する	(準備学習) 指定文献について、読み込みをしておく。(45分)	(事後学習) 演習での討論によってさらに明らかになった情報を振り返りシートにまとめておく。(45分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業に関するレスポンスシートや課題の内容(50%)、授業での対話・討論への参加状況(50%)によって評価する。
その他	0	なし
教科書		
各回資料を配布する。		
参考文献		

適宜紹介をしていく

履修条件・留意事項等

各自の研究を構築していくための機会として、位置づけていくという姿勢で授業に臨んでもらいたい。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		理論と実践の往還から学ぶ科目群 こども発達学実践演習科目					
科目名		こども発達学実践演習Ⅲ				ナンバリング	
配当年次		開講学期	2025年度前期	区分		単位	2
担当教員	佐々木 英明						

授業の位置づけ

「こども発達学特別研究Ⅲ」は、複数の教師による共同講義「こども発達支援総論」、高度な学問的成果と実践を往還しながら創意ある実践を展開をするための「発達支援分析評価法実践演習」、実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「こども発達学特別研究Ⅰ・Ⅱ」をふまえ、本大学院教育の集大成として、修士論文を完成させるための科目として位置づけられる。

授業の概要

修士論文中間発表を通して明らかになった研究計画及び修士論文草稿の修正を行う。その上で、各自の論文草稿について、問題関心、研究の目的、研究の方法、先行研究の批判的検討、文献一覧が学術論文として正確かつ十分に記載されているかを検討し、修士論文の完成を目指す。

到達目標

執筆した修士論文の原稿を、『北海道文教大学論集』あるいは『研究紀要』に投稿することを到達目標とすることができる。

授業の方法

実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の保育・教育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、これまでの授業と併せて、実践演習のためのフィールドでの経験をさらに発展させ、修士論文として発展させる手がかり得るために、対話し、情報を共有する形で学ぶアクティブ・ラーニングの場を提供する。

ICT活用

e-ラーニングのプラットフォームを活用し、遠隔授業を効果的に取り入れる。また、各自の論文草稿を、プラットフォーム上で共有し、対話と探究によるアクティブ・ラーニングにつなげていく。

実務経験のある教員の教育内容

担当者には、保育園、幼稚園、子育て教育地域支援センター、カウンセラー、特別支援学校教諭、小学校教諭など保育・教育の現場における実務経験が豊富にあり、そこで培われた実践的な知見を大学院生の修士論文に活かすよう指導を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

授業は毎回、院生の修士論文草稿に対するフィードバックで構成される。そのフィードバックをもとに、対話的学びを実践し、修士論文の作成に向かっていく。すなわちフィードバックと論文修正との螺旋的な進行によって、修士論文の完成に向かう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	院生各自、修士論文中間発表会を終えて、各自の研究計画をさらに明確にするための方向性について議論する。	修士論文中間発表会で受けた指導内容を整理しておく。(20分)	修士論文第一次草稿の作成に向けて、必要な資料を収集し、読み込みをする。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第2回	修士論文第一次草稿の作成① 指導教員の助言をふまえ「研究の背景」を執筆する。	修士論文第一次草稿「研究の背景」執筆の準備をする。(20分)	授業での指導をふまえ、第一次草稿「研究の背景」の修正を行う。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第3回	修士論文第一次草稿の作成② 指導教員の助言をふまえ「問題関心」を執筆する。	修士論文第一次草稿「問題関心」執筆の準備をする。(20分)	授業での指導をふまえ、第一次草稿「問題関心」の修正を行う。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第4回	修士論文第一次草稿の作成③ 指導教員の助言をふまえ「研究の目的」を執筆する。	修士論文第一次草稿「研究の目的」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「研究の目的」の修正を行う(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第5回	修士論文第一次草稿の作成④ 修正した「研究の目的」を発表し、対話する。	修士論文第一次草稿「研究の目的」修正を執筆する。(20分)	修士論文第一次草稿「研究の目的」の再修正を行う。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第6回	修士論文第一次草稿の作成⑤ 指導教員の助言をふまえ「研究の方法」を執筆する。	修士論文第一次草稿「研究の方法」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「研究の方法」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第7回	修士論文第一次草稿の作成⑤ 指導教員の助言をふまえ「先行研究の整理」を執筆する。	修士論文第一次草稿「先行研究の整理」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「先行研究の整理」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第8回	修士論文第一次草稿の作成⑥ 指導教員の助言をふまえ「実践の背景」を執筆する。	修士論文第一次草稿「実践の背景」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「実践の背景」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第9回	修士論文第一次草稿の作成⑦ 指導教員の助言をふまえ「実践の過程」を執筆する。	修士論文第一次草稿「実践の過程」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「実践の過程」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第10回	修士論文第一次草稿の作成⑧ 指導教員の助言をふまえ「実践の分析」を執筆する。	修士論文第一次草稿「実践の分析」執筆の準備をする。(20分)	修士論文第一次草稿「実践の分析」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第11回	修士論文第一次草稿の作成⑨ 指導教員の助言をふまえ修正した「実践の分析」を発表し、対話する。	修士論文第一次草稿「実践の分析」修正部分の執筆をする。(20分)	修士論文第一次草稿「実践の分析」を再修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第12回	修士論文第一次草稿の作成⑩ 指導教員の助言をふまえ「考察と課題」を発表し、対話する。	修士論文第一次草稿「考察と課題」部分の執筆をする。(20分)	修士論文第一次草稿「考察と課題」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		

第13回	修士論文第一次草稿の作成⑪ 指導教員の助言をふまえ、修正した「考察と課題」を発表し、対話する。	修士論文第一次草稿「考察と課題」部分の修正を執筆をする。(20分)	修士論文第一次草稿「考察と課題」を再修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第14回	修士論文第一次草稿の作成⑫ 指導教員の助言をふまえ、「引用文献、参考文献一覧」をまとめる。	修士論文第一次草稿「引用文献、参考文献」を整理する。(20分)	修士論文第一次草稿「引用文献、参考文献」を修正する。(25分)
担当教員	佐々木 英明		
第15回	修士論文第一次草稿の作成⑬ 指導教員の助言をふまえ、修士論文第一次草稿を提出・発表し、対話する。	これまでの検討をベースに、修士論文第一次草稿の章・節構成全体を再度整理する。(20分)	修士論文第一次草稿全体の校正を修正し、第二次草稿に着手する(25分)
担当教員	佐々木 英明		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	修士論文第一次草稿の提出(100%)
その他	0	
教科書		
大学院生の研究テーマに応じて、適宜紹介します。		
参考文献		

大学院生の研究テーマに応じて、適宜紹介します。

履修条件・留意事項等

大学院生各自の研究テーマに応じて、よりレベルの高い修士論文を完成させるべく、取り組みへの意思を明確にしてください。

備考欄

2025 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		大学院 こども発達学研究科					
区分		研究指導 研究指導					
科目名		こども発達学特別研究Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	1年	開講学期	2025年度後期	区分		単位	2
担当教員	宮崎 隆志、白幡 知尋、山本 愛子、美馬 正和、木谷 岐子、村田 敏彰、小林 美花、佐々木 英明						

授業の位置づけ

「こども発達学特別研究Ⅰ」は、複数の教授による共同講義「こども発達支援総論」の設定、高度な学問的成果と実践を往還しながら創意ある実践を展開するための「発達支援分析評価法実践演習」、実践研究のためのフィールドに足場を置きながら学習を深めることを可能にする「こども発達学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をふまえて展開される科目であり、また、「こども発達学特別研究Ⅱ」、「同Ⅲ」に接続し、修士論文の完成に向かうための科目として位置づけられる。

授業の概要

「こども発達学特別研究Ⅰ」は、「こども発達学実践演習」の実践的学習のなかで生まれてきた各自の研究テーマをより明確化することが、学習活動の中心である。具体的には、各自の研究テーマにもとづき、問題関心、研究の目的、研究の方法等に関する検討を、主指導教員のもとで行う。それらをもとに、先行研究を収集し、各自の研究テーマの独自性を明らかにする。

到達目標

各自の問題関心を明確にし、研究の目的、研究の方法を設定し、研究計画書を作成できる。

授業の方法

実践的教育・研究の指導を通じて、今日の幼児期・学童期の教育・保育の現場において求められる「多様なニーズを有する幼児・児童の発達支援に精通した、より高度な実践力を備えた幼児教育・学校教育の実践者を養成」するために、これまでの授業と併せて、実践演習のためのフィールドでの経験をさらに発展させ、修士論文として発展させる手がかりを得るために、情報を共有し、対話し、各自の研究課題を深めていくアクティブ・ラーニングの場を提供する。

ICT活用

eラーニングのプラットフォームを活用し、遠隔による探究の場を効果的に取り入れる。また、各自の研究計画やレポートを院生間で共有し、発表や対話の資料を作成し、アクティブ・ラーニングをすすめる。

実務経験のある教員の教育内容

教員は、保育園、こども園、幼稚園、そして小学校等での豊かな実務経験を持つ。その経験を活かし、院生が設定した研究テーマへの取り組みを支援する。

課題に対するフィードバックの方法

授業は、院生各自の研究計画書執筆過程に関する指導教員からのフィードバックを毎回行い、参加者同士の対話を軸に、修士論文執筆に向かう道筋を明らかにしていく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
------	------	-----------------	-----------------

第1回	院生各自のこれまでの研究成果の共有① 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第2回	院生各自のこれまでの研究成果の共有② 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第3回	院生各自のこれまでの研究成果の共有③ 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	院生各自のこれまでの研究成果の共有④ 各自の研究論文・実践研究等を素材にして、これまで取り組んできた研究・実践を発表し、全員で討論をしていくなかで、お互いの研究に関する情報を共有する。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第5回	指導教員の研究に学ぶ① 主指導教員の研究に関する「問題関心」を聞き、自分の問題関心との関連性について探る。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	指導教員の研究に学ぶ② 副指導教員の研究に関する「問題関心」を聞き、自分の問題関心との関連性について探る。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	指導教員の研究に学ぶ③ 主・副指導教員の研究に関する「研究の目的」を聞き、自分の研究の目的との関連性について探る。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究① 先行研究の紹介をし、それらの研究論文を素材として、研究の目的(問題の所在)等を検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究② 先行研究の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、「研究の方法」等を検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究③ 先行研究の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、分析の方法について検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究④ 先行研究の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、論理の叙述と考察の方法について検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	回各自の関心を持つ研究課題と関連性のある研究⑤ 先行研究の紹介をし、それらの研究論文を素材として、特に、引用文献・参考文献の引用の仕方について検討し、それらの研究論文から学ぶべきところを積極的に吸収する。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			

第13回	研究計画書の発表:第1週から第12週までの学習を参考にしながら、各自の研究計画書を発表する。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	研究計画書の修正:各自の研究計画書に基づいた発表に関して,指導教員チームからのアドバイスを組み入れて検討した研究計画書(案)を作成し、再度、発表する準備をする。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	各自の研究計画書に基づいた発表に対して、指導教員からのアドバイスを組み入れて検討した最終的な研究計画書を作成し、修士論文の作成に着手する。	各自のこれまでの研究・実践について発表資料(パワーポイント資料)を作成する。(20分)	お互いに情報を交換し、共有した事柄を授業の振り返りシートにまとめておく。(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究計画書の作成を中心に評価する。
その他	0	
教科書		
院生の皆さんの研究に資する先行研究を適宜お伝えします。		
参考文献		

院生の皆さんの研究に資する先行研究を適宜お伝えします。

履修条件・留意事項等

研究計画書の内容についてよく理解しておいてください。

備考欄

なし